

# ポケモンの出現したヒロアカの世界とポケモンの世界に行った出久 の物語

お〜い粗茶

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

4歳の時、無個性を知らされた緑谷出久はウルトラホールに迷い込んでしまい、アローラ地方に来てしまう。

そこでククイ博士に拾われ1歳までポケモンと一緒に育てられた。

11歳の時、島巡りをしてスカル団をぶっ飛ばし、エーテル財団のルザミーネの計画を阻止した。

その後アローラ地方に迷い込んだウルトラビーストも捕まえ、三年かけ、カントー、ジョウト、ホウエン、シンオウ、イツシュ、カロス地方を回りポケモンマスターとなった。

全てのポケモンをゲット又は親友となった。伝説のポケモンも助けた事もあった。それのおかげで出久に力を貸してくれるようになった。

そしてアルセウスの力を借り、元の世界に戻るようになった。

現代モノのポケモンの小説を読み書きたくなった。

後悔はしていない。

文才0ですが楽しんでくれると嬉しいです。

3 / 26

タグにオリキャラのタグを追加しました。

## 目次

プロローグ&設定	1
帰ってきた自分の世界(修正版)	4
混乱する街	7
プレゼント・マイクVSミロカロス	11
雄英高校 入試試験(ルナティック)	14
個性把握テストとポケモンゲット(修正版)	17
戦闘訓練とポケモンバトル	21
委員長とUSJ襲撃	27
政府の対応	33
政府とポケモン	36
A組数人の日常	41
雄英体育祭・プロローグ	45
雄英体育祭・障害物競走	48
雄英体育祭・障害物競走	51
雄英体育祭・騎馬戦 チーム決め	53
雄英体育祭・騎馬戦	55
雄英体育祭・昼休憩・トーナメント決め	58
雄英体育祭・トーナメント1回戦	61
雄英体育祭・トーナメント	65
雄英体育祭	67
雄英体育祭 轟VS緑谷	69
雄英体育祭 準決勝 決勝	71
表彰式	74
博物館大パニック 復活!古代の王者	77

いたずら大好きベロバー

## プロローグ&設定

緑谷出久はウルトラスペースの中に居た。

目的は自分の元いた世界に戻るためだ。

「アルセウス力を貸してくれる?」

出久は目の前の創造神に話しかける。

『もちろんさ。そなたには返しきれない恩があるからな』

アルセウスは次元の隙間からパルキア、ディアルガを呼び出す。

パルキアが『あくうせつだん』で空間を切り裂きディアルガが『ときほうこう』で隙間を広げる。出久はその隙間に入ろうとする。

『そうだ、出久よ』

アルセウスが出久に話しかける。

「何?」

『お前さんのポケモン達を預けているボックスをあっちでも使えるようにしておいた。ポケモン図鑑から引き出したり預けたりできる』

「ありがとう。みんなと別れたくないしね」

出久は隙間に入り消えてった。

隙間は閉じた。

『出久よ、我々もお前と出会えて良かった。これからもよろしく』

ここからは設定

主人公

緑谷出久

本来のヒロアカの主人公。

容姿・緑のくせつ毛、緑と黄色のTシャツ、ズボン、赤いスニーカー  
左手にZリング、ポケットの手帳のしおりにキーストーン。

ポケモン図鑑はタブレット型

頭の中には全てのポケモンの情報を覚えている。

手持ち（作者の好きなポケモン）

ジュナイパー

レベル100

タイプ くさ・ゴースト

性別 ♂

特性 えんかく

技 リーフブレード・かげぬい・ブレイブバード・つるぎのまい  
アローラ地方で最初に貰ったモクローが進化した姿。珍しい夢特性。

出久の1番のパートナー。

アマルルガ

レベル100

タイプ いわ・こおり

性別 ♀

特性 ゆきふらし

技 リフレクター・げんしのちから・ふぶき・フリーズドライ  
カロス地方で化石を復元して生まれたアマルスが進化した姿。珍しい夢特性。とても甘えん坊。

サザンドラ

レベル100

タイプ あく・ドラゴン

性別 ♂

特性 ふゆう

技 あくのはどう・りゆうせいぐん・だいもんじ・だいちのちから  
イツシュ地方の街中でイタズラ好きで暴れていたモノズをゲットした。食いしん坊。

クチート

レベル100

タイプ はがね・フェアリー

性別 ♀

特性 いかく

技 じゃれつく・アイアンヘッド・ふいうち・つるぎのまい  
ホウエン地方で怪我をしていたところを出久が助けた。最初は警

戒されていたが今は仲良し。メガ進化できる。

グライオン

レベル100

タイプ じめん・ひこう

性別 ♂

特性 ポイズンヒール

技 まもる・じしん・アクロバット・ハサミギロチン

シンオウ地方で出久に勝負と挑んできて負けたグライガーがイッ  
シュ地方でグライオンに進化して再び勝負を挑んできて仲間となっ  
た。

喧嘩が大好き。

ミロカロス

レベル100

タイプ みず

性別 ♀

特性 かちき

技 ハイドロポンプ・れいとうビーム・じこさいせい・りゅうのは  
どう

シンオウ地方でギンガ団に襲われていて助けた。自分の美しさを  
汚される事を嫌う為出久以外は触らせてくれない。

## 帰ってきた自分の世界（修正版）

出久はある公園に降り立った。

時計を見ると朝の7時半過ぎだった。

「久しぶりだな、ここに来るのも。出てこい！サザンドラ！」

ボールからサザンドラをだして背中に乗せてもらう。

「街の方まで飛んでー！」

サザンドラは一吠えすると空に飛び上がる。

そのまま街に向かう。

街に来るとビルの屋上に降りる。

「ありがとう、ほら、ポケ豆だよ。」

サザンドラにポケ豆を3個ほど上げてボールに戻す。

ビルの非常階段を使い降りて行く。

街の中をキョロキョロしながら歩く。

ドゴーン！

近くから大きな音が聞こえた。

その方向を見ると鉄道の線路の上に怪獣のようなが暴れていた。

それをヒーロー達が対抗していた。

近くに行つてみると木の様なコスチュームを着たヒーローが居た。

近くのおじさんに聞くと『シンリンカムイ』というヒーローらしい。

「通勤時間帯に能力違法行使及び強盗致傷、まさに…悪の権化よ。」

しかしシンリンカムイが殴られて吹き飛ぶ。そこにヴィランが追

い打ちをかけようとする。

自分は走りだして警官達の包囲網を抜ける。

「君！危ないから離れなさい！」

警官が注意してくるが振り向かずボールを投げる。

「出てこい！ジュナイパー！」

「フルツファー！」

一番の相棒ジュナイパーを出す。

「ジュナイパー！あの怪物に『かげぬい』！」

ジュナイパーは矢を取り出しヴィランに向けて放つ。それはヴィ



ランの影に刺さる。

ヴィランは影に矢が刺さりその場から動けなくなった。そこに全長10メートルぐらいある女の人が蹴りを入れる。

メディア達が彼女にカメラやマイクを向ける。

「本日デビューと相成りました。M tレディと申します。以後お見知り置きを」

その隙に自分はジュナイパーをボールに戻してその場を去った。

その後街の色々なところを回った。

そして3時ごろ街中でベトベトンの様なヴィランが暴れていた。

ヒーロー達は棒立ちだった。中学生が捕まっているらしい。その顔を見ると懐かしい幼馴染のかつちゃんだった。

気づくと走りだしていた。

「バカヤロー、止まれ！止まれ！」

ヒーローが止まるが走り続ける。

「出てこい！グライオン！」

『グライ！』

ベトベトンが気づいて攻撃してくるが

「グライオン、まもる！」

青い壁が出て攻撃を防ぐ。

「グライオン、最大火力の『じしん』！」

すると半径60メートルの中で震度7.5程度の地震が起こる。

ヒーロー達は突然の地震にビックリしつつも人を避難させる。

ベトベトンは地面の隙間に挟まっていた。

「グライオン、アクロバットで人質を助けて！」

グライオンはベトベトンに連続で攻撃してかつちゃんを助け出す。

ベトベトンはお怒りだった。

「グライオン、トドメのハサミギロチン！」

「テメエ、何しやが……」バタツ！

ハサミギロチンが命中して気を失った。

「私が来た！ってアレ？」

オールライトが遅れてやってきた。

この後ベトベトンはヒーローに回収され、警察に引き取られたみたいだ。

自分はこっそりとその場を後にした。

そのまま近くのゴミだらけの海浜公園にやってきた。

「ここなら野宿しても目立たないかな。」

いつものようにテントを張り焚き火の準備をする。

「焚き火はダメか。木の実で済ませよう。」

リュックからオボンの実とポケモンフーズを取り出す。

いつもの皿をだしてポケモンフーズを入れる。

「みんなー、ご飯だよ。」

ジュナイパー、アマルルガ、サザンドラ、クチート、グライオン、ミ

ロカロスをボールから出す。

その後美味しくご飯を食べた。

そしてそのまま疲れたのか寝てしまった。

次の日あんな事になるなんて思いもしなかった。

## 混乱する街

朝、目を覚ますとやけに街の方が騒がしかった。

またヴィランが暴れているのかと思ったが、昨日の人達の反応とは違う。とにかく行ってみよう。

街の中には道路の真ん中にカビゴンが寝ていて、電柱などにはムツクル、オニスズメ、ポツポ、マメパト、ヤミカラスなどが止まっている。公園の草むらからはキャタピー、クルミルが出て来る。

「なくんだ、ポケモン達がいるだけか……………いやいや！なんでポケモンがいるの!？」

一瞬『いつもの光景』と思ったが、ここは自分の元いた世界だ。ポケモンがいるはずない。

すると人達が逃げてくる。その後ろにはスピアーが十匹程が追いかけていた。

ボールに手をやろうとするとビルの屋上から樹木が伸びてきてスピアーを捕まえた。

「先制捕縛ウルシ鎖牢！何ですか、この巨大蜂は。」

そこにはヒーロー『シンリンカムイ』がいた。しかし捕まっていたスピアーの腕の針が紫色になり『どくづき』をしてシンリンカムイのウルシ鎖牢を抜け出す。

「くっ、毒か!」

シンリンカムイの顔色が悪くなった。

スピアー達が毒状態になったシンリンカムイに襲いかかる。

「間に合え！頼んだよ、アマルルガ！『リフレクター』!」

シンリンカムイの前にアマルルガをだしてリフレクターでスピアーの攻撃から守る。空が曇りあられが降り始める。

「!?何だこいつは!？」

「早く逃げてください!アマルルガ、『ふぶき』!」

スピアー達にふぶきが命中して逃げていく。

とりあえずシンリンカムイの毒を消さないと。

「大丈夫ですか?」

「あ、ああ。まさかヒーローが守られるとはな。うっ！」

「今毒を消しますからね。」

バックから毒消しを取り出してシンリンカムイの腕に吹きかける。シンリンカムイの顔色が良くなる。

「助かったよ。ところで君は？」

「緑谷出久です。ではまた。」

アマルルガを戻してその場から去る。そのまま海浜公園に戻ってきた。

「お腹すいたー。今日はモモンの実でも食べるか。」

少年食事中

「でも何でポケモンがこの世界に出現したんだろう？多分アルセウスの気まぐれだろ。」

(何故ばれたし！) ↑アルセウスの心の声

とりあえず街にまた行って見るか。

移動中

再び街に來ると人っ子ひとりいなかった。

家の窓などを見ると停電もしているらしい。

「発電所に行ってみるか。出てこい、サザンドラー！」

空を飛び発電所に向かう。その途中にケンホロウやキャモメ、ムクホークなどとすれ違った。

発電所にはプロヒーロー達が4、5人居た。発電所の鉄塔を見るとコイル、レアコイル、ジバコイルが沢山くっついて電気を食べていた。そのてっぺんにはサンダーが居る。これが停電の原因か。近くの草陰に隠れる。

ここは雄英高校からも近い為ヒーローも多い。

エクトプラズム、プレゼント・マイク、イレイザー・ヘッド、セメントス、ミッド・ナイト、二足歩行のネズミ？が居る。(昨日電気屋のタブレットなどで今のヒーロー達を調べた。)

イレイザー・ヘッドが

「なあ、これどうすんだ？どうにかしないと雄英高校の電気も復活しませんよ。」

「流石にこんなに居るんでは辛いですよ。」

とセメントス。プレゼント・マイクが

「オレのヴォイスで追っ払うのはどお？」

「そんなのより、そこに隠れている彼に頼もう。」

バレてた。自分は草陰から出る。

ネズミに聞く。

「いつから気づいてたんですか？」

「君がここに来た時からだよ。私は根津校長だよ。」

「縁谷出久です。」

最初からかよ。まあいいや。

根津校長が話し掛けてくる。

「とりあえず君はアレらの名前を知っているかい？」

コイル達を指差して聞かれる。

「知ってますよ。コイルとその進化系と伝説のポケモンサンダーですね。追い払ってきましようか？」

「知ってるならお願いしたい。」

根津校長から許可をもらう。ボールを取り出して投げる。

「出てこい、サザンドラー！サンダーの所まで連れてって。」

サザンドラを出してサンダーの所まで向かう。ヒーロー達はポカンとしていた。

サンダーとは友達だし話は通じるはず。

十分後

サンダーは何処かに飛び立って行ってコイル達もそれについて行ってしまった。

「追い払って来ましたよ。」

根津校長が

「君には色々聞きたい事があるから雄英高校まで来てもらえるかい？」

まあ別に良いか。

移動中

雄英高校・会議室

「成る程、ポケットモンスターか。」

根津校長が頷く。説明がめんどくさかった。凶鑑なんかを見せてやっとな得してくれた。

「ホカノヒーローカラーの情報ニヨルトペットナドモスベテポケモンニナツテシマツテイルラシイ。ブラドキング先生ノカイイヌモ変ワツテシマツタトノ情報ダ。」

エクトプラズムからも話が出る。

根津校長が

「とりあえず『ポケモン』とやらの強さなどを知りたいね。」

「じゃあ、戦ってみます?。」

自分の提案を発言する。

「良いのかい?。」

根津校長が聞き返してくる。

「皆も運動不足でバトルしたいと思うので。」

「運動不足解消の為かよ。」

イレイザー・ヘッドが突っ込む。

「じゃあ、オレがやりたいぜ〜!。」

プレゼント・マイクが拳手をする。

根津校長が

「じゃあ、頼もうかな。ここじゃ出来ないし移動しよう。」

移動中

グラウンドβ

根津校長がセメントスに

「審判お願いね。」

「分かりました。」

今ここにプロヒーローVSポケモンのバトルが始まる!

## プレゼント・マイクVSミロカロス

グラウンドβ

「オレはいつでもOKだぜ〜!」

プレゼント・マイクは答える。自分はボールを取り出して投げる。

「頼んだよ!ミロカロス!」

ミロカロスがボールから出てくる。

「じゃあ、始め!」

セメントスが試合開始を宣言する。

「YEAHHHHH!」

ミロカロスは突然の爆音に少し怯む。

「ミロカロス!ハイドロポンプ!」

耳を塞ぎながら命令する。

ミロカロスは口元からすごい水圧のハイドロポンプを放つ。

それは見事にプレゼント・マイクに命中する。

「ゲホゲホ!突然ビビったぞ!」

あんまり効いてないようだ。鼻とかには水が入ったぐらいか。

「ミロカロス、『れいとうビーム』!」

水色の光線を放ちプレゼント・マイクの足を凍らせる。

「うおっ?!氷結系も使うのかよ!?!だったらこっちも本気で行くぞ!Y

EHHHHH!」

再びヴォイスを放つ。

するとミロカロスの周りに下に下がる青いオーラが現れすぐ消える。

その後赤いオーラが現れまたすぐ消える。

「どうやら特性『かちき』が発動したらしい。」

「ミロカロス、行くよ!」

ポケットからひし形の青のクリスタルを取り出してZリングに付ける。

波が立つようなポーズを取るとミロカロスにZパワーが充填される。

「くらえ！ミロカロスの全力のZ技！『スーパーアクアトルネード』！」

プレゼント・マイクとミロカロスが水中に放り込まれ、ミロカロスが突進していきプレゼント・マイクを巨大な渦潮の中で滅多打ちにする。

技が終わるとそこには気絶したプレゼント・マイクが倒れていた。

「勝負あり！勝者緑谷出久！」

セメントスが仕切る。

「よく頑張ったな、ミロカロス。ブラッシングしてやるぞ。」

バックからブラシを取り出してブラッシングする。十分出来たのでミロカロスをボールに戻す。

「今のがポケモンの力か。かなり強いんだね。」

根津校長がそんなことを言ってる。

「そんな事ないですよ。野生のポケモンはそんなに強くありませんよ。」

「よし。緑谷出久君。」

根津校長が改まって話し掛けてくる。

「何ですか？」

「君を雄英高校の今年の特別推薦入学者とする！」

「「ええーっ！？」」

セメントス、ミッドナイト、後いつのまにか目を覚ましたプレゼント・マイクが驚いていた。

「別にいいですけど。理由は？」

根津校長に理由を聞く。だいたい想像つくけど。

「ポケモンとやらの情報は君が一番知っているからね。それがヴェイランとかに渡らないようにする為だよ。」

「それには俺も賛成だ。後ひとつ質問がある。」

イレイザー・ヘッドも賛成する。てゆうか質問って何？

「お前は勉強出来るのか？」

あ、そういえばポケモンスクールは行ってたけどそれ以外は行っていないや。



「軽い計算とかなら出来ませうけど。政治とかは一切分からないです。」  
「なるほどな。とりあえず俺が社会系を教える。それ以外も手伝って  
くれ。」

そこから一週間は地獄だった。

その一週間でポケモンの安全性、捕獲の方法、ポケモンバトルなどの説明会があった。それも大変だった。

そして一ヶ月後には街の公園、ビルの屋上などにバトルフィールドが設置されていた。それはまた別の話。

## 雄英高校 入試試験（ルナティック）

こっちの世界に帰ってきてきて十ヶ月。

自分は雄英高校の近くに家を用意してもらった。ポケモンについての情報のお礼らしい。

今日は雄英高校入試だ。根津校長にお呼ばれしている。理由？

入試の手伝いだよ。まあ、日給五万だし文句はない。

ちなみにポケモンは日本にしか出現していないらしい。アルセウスからの説明によると

富士山頂にやりのはしら、

阿蘇山にグラードン、

琵琶湖にカイオーガ、

沖繩に月輪、日輪の祭壇

があるらしい。

とりあえず、雄英に行くか。

移動中

「根津校長、来ましたよ。」

「よく来てくれたよ。入試の手伝いをしてくれてありがとう。」

「まあいいですけど。本当にやるんですか？」

「もちろん！今でもポケモンによる被害がたまにあるからね。」

ポケモンとの戦闘もあるからその予行のようなものらしい。

根津校長が

「じゃあよろしく頼むよ。」

じゃあ下準備に行くか。

そのまま実技試験会場に向かう。

3分後

下準備も終わったのでプレゼン会場の壁際にいる。

「今日は俺のライブにようこそー!!エヴィバディセイハイ！」

シーン

「こいつぁシヴィー！受験生のリスナー！実技試験の概要をサクッと

プレゼンするぜ！ア－ユーレディ!？」

「YEAHHH！」

シーン

「入試要項通り！リスナーにはこの後！10分間の『模擬市街地演習』を行なってもらうぜ！持ち込みは自由。プレゼン後は各自指定の演習会場へ向かってくれよな！O・K!？」

シーン

「演習場には三種のポケモン達が配置されていてそれぞれにそれに応じたポイントがついてるぜ！各々の個性でポケモンを行動不能にしポイントを稼ぐのが君たちの目的だ！もちろん、他人への攻撃等アンチヒーローな行為はご法度だぜ!？」

「質問よろしいでしょうか!？」

メガネの委員長のような人が質問をする。

「プリントには四種のポケモンがと書かれています！誤載であれば日本最高峰たる雄英において恥ずべき痴態！我々受験者は規範となるヒーローのご指導を求めてこの場に座しているのです!？」

それにプレゼント・マイクが答える。

「オーケーオーケー、受験番号71111くんナイスなお便りサンキューな！四種目のポケモンはOP！そいつは言わばお邪魔虫！スーパーマ○オブラザーズやったことあるか!？レトロゲーの。あれのドッスンみたいなもんさ！各会場に一体！所狭しと大暴れしている『ギミック』よ!？」

「有難う御座います、失礼致しました!？」

「俺からは以上だ！最後にリスナーへ我が校”校訓”をプレゼントしよう！かの英雄ナポレオン！ボナパルドは言った!『真の英雄とは人生の不幸を乗り越えていく者』と!」

Plus Ultra!」

「それでは皆良い受難を!」

移動中

ある会場にやってきた。テキトーに来たから誰がいるとかは知らない。さて、始まるな。

「出てきて、フーパー！」

「フーパー！イスク！あえたー！」

フーパーをボールから出す。

「フーパー頼める？」

「フーパー頑張る！おーでーまーしー！」

『ハイ、スタート！』

フーパーがポケモンをおでました直後プレゼント・マイクが開始の合図をする。

『実戦じゃカウントなんて無いんだよ！走れはしれ！』

受験者達が走り出す。その先には。

レジロック、レジアイス、レジスチル、レジギガスのレジ系、

ランドロス、ボルトロス、トルネロスの霊獣フォルム、

空にはルギア、ラティオス、ネイティオ、ムクホーク。

地中にはイワーク、ハガネール、ドリユウズ、ダグトリオ等がいる。

他の会場には

ホウオウ、ミュウツー、カイリユー、エンテイ、ライコウ、スイクン、サンダー、ファイアー、戦闘力530000、グラードン、カイオーガ、バンギラス、オーダイル、リングマ、バクオング、バクーダ、デオキシス、レックウザ、ビークイン、ガブリアス、ディアルガ、パルキア、ギラティナ、マナフィ、ワルビアル、オノノクス、キュレム、ゼルネアスなんかを呼び出してある。流星にアルセウスとイベルタルは呼ばなかった。

「フーパーも行く！」

フーパーも行きたいらしいので戒めの壺を取り出して開ける。フーパーは元の姿に戻り戦闘に向かっていった。

それから十分後

伝説のポケモン達は全員残ってる。他のポケモンが何体かやられたらしい。既に怪我を治して帰してある。

リカバリーガールが治療して回っている。その際に伝説のポケモン達全員に虹色ポケ豆を一粒ずつ渡して帰ってもらった。

とりあえず自分も家に帰るとしますか。

## 個性把握テストとポケモンゲット（修正版）

今日は雄英高校の入学式。

教室はA組らしいのでクラスに向かう。

すると色々な姿をするクラスメートがいる。

「君は一体？入試の時いたのかい？」

メガネの男子が話し掛けてくる。

「僕は特別推薦だよ。名前は緑谷出久だよ。」

「ぼ…俺は飯田天哉だ。これからよろしく。」

すると笑顔のたえない女の子がくる。

「特別推薦なんてあるんだ。私は麗日お茶子だよ。」

麗日さんが話し掛けてくる。

「友達ごっこしたいなら他所へ行け。」

寝袋に入ったイレイザー・ヘッドがイモムシのようにしていた。

その言葉によりクラスが静かになると

「ハイ、静かになるまで8秒かかりました。合理性に欠けるね。担任の相澤消太だ。とりあえず、体操服に着替えてグラウンドに出ろ。」

移動中

「個性把握テスト〜!？」

「入学式は!？」「ガイドダンスは!？」

クラスメートからの意見に相澤先生が答える。

「ヒーローにそんな事してる時間ないよ。中学生でやってるだろ、個性禁止の身体テスト。」

相澤先生がボール投げのボールを持つ。

「入試一位の爆豪。中学のボール投げの記録は？」

「58メートル。」

かつちゃんが答える。

「なら、このボールを円から出さないで個性を使って投げてみる。」  
「かつちゃんが円に移動して投げる。」

「死ねえ!!」

『703メートル』ピピッ

「まず自分の『最大限』を知る。それがヒーローの素地を形成する合理的手段。」

「すげー!」個性を思っきり使えるのか。「楽しそう!」

ある言葉に相澤先生が反応する。

「楽しそう、か。なら、個性把握テスト最下位は見込みが無いと判断して除籍処分とする。」

クラスメートが抗議の声が上がる。

「自然災害…: 大事故…: 身勝手な敵…: 気まぐれなポケモン達、いつどこから来るか分からない厄災。日本は理不尽にまみれている。そういうピンチを覆していくのがヒーロー。放課後マックで談笑したかったならお生憎、これから三年間 雄英は全力で君たちに苦難を与え続ける。」

Plus Ultraさ。全力で乗り越えて来い。」

なるほどね。あれ? そういえば僕は無個性だけどやるのか?

とりあえず相澤先生に聞くか。

「相澤先生、自分はやるんですか?」

「お前はやらなくていい。後でお前にやってもらいたい事があるからその説明をしよう。」

一体何やるんだろう?

「雄英高校では学校全員がポケモンを一体以上所持することになった。お前にはあいつらのポケモン捕獲に付き添ってほしい。俺よりお前の方が詳しいからな。後、先生達の分のモンスターボールを貰えるか? 代金は根津校長に頼んでくれ。」

まあ代金もらえるなら良いか。

適当に荷物からスーパー、ハイパー、ネット、ヒール、ムーン、ラブ、ダークボールなんかをいくつか渡す。

「様々なボールがあるんだな。渡しておくよ。」

相澤先生は寝袋にボールを放り込む。あの寝袋、クラス全員の体操服とか入ってたんだよな? 中に四次元空間でも広がってるのか?

一時間後

全員の個性把握テストが終わる。相澤先生が

「よし、終わったな。ちなみに除籍処分は嘘な。合理的君らの最大限を引き出す合理的虚偽。」

「はあー!?!」

「あんなの嘘に決まっていますわ。少し考えればわかる事ですわ。」

八百万さんだったけ?が意見をいう。相澤先生が

「そゆことだ。次は雄英の周りの森に向かうぞ。」

移動中

森の中にはポケモンがそこらにいる。

「先生、これから何やるんですか?」

蛙吹さんだったか?が聞いてくる。

「お前らも知ってるだろ。一年前ぐらいに現れた『ポケモン』を。そいつらをここにいる全員が捕まえるんだ。」

「はあー!?!」

相澤先生の発言にクラスメートが驚く。

「とりあえず、質問は緑谷に聞け。そいつの方が詳しいからな。俺は先に戻る。捕まえた人から下校だしていい。」

相澤先生、生徒放置でいいのか?

まあとりあえず説明するかな。

「と、とりあえず説明しようかな。ポケモンはポケットモンスターの略なんだ。このモンスターボールに入っちゃえばポケットに入っちゃうからポケットモンスター。全員好きなボールを選んで。」

全員がボールを選び終わる。ラブボが女の子に人気だった。

「使い方は本当はポケモンバトルで弱らせるんだけど今回は個性で弱らせてボールをポケモンに投げる。失敗してもボールはあるから僕の所に来てね。捕まえたらここに集合。」

麗日さんが

「質問!どんな子でもいいの?」

「まあみんなのレベルに合う子を選ぶといいよ。」

皆がポケモンを捕まえに行ってしまった。

二時間後

皆色々なポケモンを捕まえていた。

青山 ロトム（ゴージャスボール）  
芦戸 ヤトウモリ♀（ムーンボール）  
蛙吹 ケロマツ（ダイブボール）  
飯田 ズバット（ハイパーボール）  
麗日 ミミツキユ（ラブラブボール）  
尾白 リオル（ムーンボール）  
上鳴 ラクライ（ムーンボール）  
切島 ココドラ（ヘビーボール）  
口田 ニドラン♂（ラブラブボール）  
砂藤 ペロツパフ（スーパースターボール）  
障子 ワンリキー（モンスターボール）  
耳郎 オンバット（ラブラブボール）  
瀬呂 ビードル（ネットボール）  
常闇 ヤミカラス（ダークボール）  
轟 カチコール（モンスターボール）  
葉隠 イーブイ（ラブラブボール）  
爆豪 ヒノアラシ（モンスターボール）  
峰田 ベトベター（アローラの姿）（ムーンボール）  
八百万 ヒトツキ（色違い）（ラブラブボール）  
を捕まえていた。八百万さんは色違いで、峰田君はアローラの姿だし。どこにいたし。

そして全員にポケモン達を説明して下校した。



## 戦闘訓練とポケモンバトル

雄英高校は午前必修科目・英語などの普通の授業。更にポケモンについての勉強。

昼は大食堂で一流の料理を安価で頂ける。

「白米に落ち着くよね、最終的に！」

そして午後の授業はヒーロー基礎学！なんか オールマイトが来るらしい。ポケモンの世界ですごい人をたくさん見てきたら特に凄いと感ぜない。サトシとか。

「わーたーしーがー!!普通にドアから来た！」

「オールマイトだ！すげえや 本当に先生やつてるんだな！」

「ヒーロー基礎学！ヒーローの素地をつくる為様々な訓練を行う科目だ！早速だが今日はこれ！戦闘訓練！」

「そしてそいつに伴って……こちら！入学前に送ってもらった『個性届け』と『要望』に沿ってあつらえた『戦闘服』！」

「着替えたら順次グラウンドβに集まるんだ！捕まえたポケモン達を忘れずに！」

「「はーいー！」」

移動中

オールマイトが

「始めようか！有精卵共！戦闘訓練のお時間だ！」

自分は個性届けを出していないから、戦闘服はこの世界に戻ってきた時の服装だ。ずっとこれだったから落ち着く。

「あ、出久くん普段着なの？」

頭の上にミミツキユを乗せた麗日さんが聞いてくる。

「うん、個性届け出してないしね。麗日さんもいいね。」

「うん、お任せにしたらパツパツスーツになっちゃった。」

「ミミツキユ！」

ミミツキユも返事する。

「先生！入試の演習場ですがまた市街地演習を行うのでしょうか!？」

機械っぽい戦闘服の飯田くんが質問する。

それにオールマイトが答える。

「いいや！その二歩先に踏み込む！屋内での対人戦闘訓練さ！君らにはこれから『敵組』と『ヒーロー組』に分かれて2対2の屋内戦を行ってもらおう！」

「基礎訓練も無しに？」

蛙吹さんがオールマイトに聞く。

「その基礎を知る為の実践さ！」

すると色々な人から質問がでる。

「勝敗のシステムはどうなります？」

「ぶっ飛ばしてもいいんすか」

「また相澤先生みたいな除籍とかあるんですか……？」

「分かれるとはどのような分かれ方をすればよろしいんですか？」

「ポケモン達はどうするんですか？」

「このマントヤバくない？」

「んんん〜聖徳太子イイ！」

まあ最後のは関係ないけどね。

「いいかい!?状況設定は『敵』がアジトに『核兵器』を隠していて『ヒーロー』はそれ进行处理しようとしている！『ヒーロー』は制限時間内に『敵』を捕まえるか『核兵器』を回収する事。『敵』は制限時間まで『核兵器』を守るか『ヒーロー』を捕まえる事！ちなみにポケモンは使用可能！状況により使いわけろ！」

(設定アメリカンだな！)

クラス全員がそう思った。

「コンビ及び対戦相手はくじだ！とりあえず全員引いてくれ！」

Aチーム 緑谷・麗日

Bチーム 轟・障子

Cチーム 八百万・峰田

Dチーム 飯田・爆豪

Eチーム 芦戸・青山

Fチーム 砂藤・口田

Gチーム 耳郎・上鳴

Hチーム 常闇・蛙吹

Iチーム 尾白・葉隠

Jチーム 切島・瀬呂

「続いて最初の対戦相手は！こいつらだ！ヒーローAチーム！敵Dチーム！」

オールマイトがくじを引いて決める。

「あ、後緑谷少年！君はポケモンは何を使うかだけ私に教えてくれるかい!？」

「あ、はい。使おうと思ってるのはクチートですね。」

爆豪side

「訓練といえ敵になるのは心苦しいな。これを守ればいいのか…」

飯田が独り言をいう。

俺はずつとあいつが気になる。ずつと前に会ったことがあるような。記憶が突っかかって出てこねえ。

(補足 爆豪は十年以上緑谷に会っておらず緑谷の母親にも会ってない為思い出せないでいた。)

爆豪sideEND

屋内戦闘訓練開始！

「麗日さん、かつちゃんが来たら僕が足止めをする。その際にミミツキュと一緒に核兵器があると思う部屋に向かって。」

「分かったわ。」

分かれ道の一方から『ひのこ』が飛んでくる。それに続いて道の角からかつちゃんが奇襲してくる。

「麗日さん！今のうちに！」

「うん！」

麗日さんかつちゃんが来た道を進んでいった。

「かつちゃん……やーつと思いつたぜ！十年以上もどこ行ってやがった、デク！」

かつちゃんが自分のことを思い出したらしい。てゆうか忘れてたのかよ。

「てめえを中断されねえ程度にぶつ殺す！」

「させないよ！クチート行くよ！」

クチートは頷く。

キーストーンを取り出して握る。

「クチート！命爆発！メガシンカ！」

クチートが光り始めて姿を変える。キバの付いた口が二つに増える。

かっちゃんも攻撃してくるが、

「クチート、『ふいうち』！」

特性『ちからもち』によつて威力が二倍になった『ふいうち』によりかっちゃんが壁まで吹き飛ばす。

「クソが！ヒノアラシ、『ひのこ』！」

そのままかっちゃんとのバトルが続くがヒノアラシが戦闘不能になり

クチートの『じゃれつく』で気絶させる。腕の手榴弾のピンを抜こうとした時はビビったけど。

クチートが元の姿に戻った。

麗曰 side

出久くん大丈夫だよね。

核兵器のある部屋に着くとそこには物が一つも置いてなかった。

「来たか、麗曰くん。触れた対象を浮かしてしまう個性。だから先ほど君対策でこのフロアの物は全て片付けておいた！」

飯田くんが自慢げに語る。

「ミミツキュー！」

「そうだよね、やるしかないか。ポケモンバトルだ！」

「いいだろう！受けて立とう！頼んだぞ、ズバット！」

目の無いコウモリのポケモンを飯田は繰り出す。

「頼んだよ、ミミツキュー！」

ポケモンバトルスタート！

「ズバット、『きゆうけつ』！」

「ミミツキュ、『かげうち』！」

相打ちになる。

「ズバット、『おどろかす』！」

「ミミツキユ、『ドレインパンチ』！」

相打ち

「ズバット、もう一度『きゆうけつ』！」

「『おどろかす』！」

再び相打ち。これじゃキリがない。そうだ！

「ミミツキユ、『かげぶんしん』！」

ミミツキユの姿が増えて分身する。

飯田くんは慌てている。

「どれが本物だ?！」

「今だよ、『かげうち』！」

ズバットに命中して戦闘不能になる。

その隙に核兵器に近づき触る。

『終了!・ヒーローチームWIN!』

オールマイトの声が聞こえ終わる。

麗日sideEND

モニタールーム

かつちゃん保健室に運ばれた。

「今回のベストは緑谷少年だ!わかる人はいるかな?」

オールマイトが聞くと八百萬さんが答える。

「緑谷さんが一番被害がゼロになるように対応していたからです。」

爆豪さんは核兵器があるのに危険な攻撃をしようとした事。です

よねオールマイト先生。」

(思ってたよりも言われた!)「まあ正解だよ。」

その後全てのチームの対戦が終わった。

放課後

「よお、緑谷!お前すげえよなあ!」

切島くんが話し掛けてくる。

「ポケモンがなんか姿変わっていたよね。」

「何なのかしらあれは?」

芦戸さんと蛙吹さんが参加してくる。

「あ、あれは『メガシンカ』だよ。」

「『メガシンカ?』」

「うん、自分とポケモンの絆の力で姿を変えるんだ。だけどバトルが終わると元に戻っちゃうんだ。」

「なあ、俺のポケモンは出来るのか!?!」

切島くんが聞いてくる。

「うん、出来るけど、ココドラ自体は出来ないんだ。その時になったら教えてあげる。」

「サンキューな!強くなるぞ、ココドラ!」

切島くんがボールからココドラを出して抱き上げる。

その後色々な話を話して解散した。

## 委員長とUSSJ襲撃

朝からオールナイトが雄英高校の教師になったから記者などが連日押し寄せてくる。

こっそりと入って質問されなかった。

「昨日の戦闘訓練お疲れ。Vと成績を見させてもらった。」

相澤先生が朝のHRで話してくる。

「さて、HRの本題だ……急で悪いが今日は君らに……学級委員長を決めてもらう。」

『学校っぽいの来たー!』

クラス全員が叫ぶ。

「委員長、やりたいです ソレ俺!」

「ウチもやりたいス。」

「ボクの為にあるヤツ☆」

「リーダーやるやる!」

「静粛にしまえ!多をけん引する責任重大な仕事だぞ……!周囲からの信頼あつてこそ務まる聖務!民主主義に則り真のリーダーを皆で決めるというなら……これは投票で決めるべき議案!」

飯田くんがとてもいい事を言ってる。そびえ立っている右手が無ければ。

「日も浅いのに信頼もクソも無いわ 飯田ちゃん」

「だからここそこで複数票を獲った者こそが真にふさわしい人間という事にならないか!?どうでしょうか 先生!」

「時間内に決めれば何でもいいよ」

5分後

自分に3票入っている。正直驚いた。

「なんでデクに……!誰が……!」

「じゃあ委員長 緑谷、副委員長 八百万だ。」

その後昼食の時 報道陣が侵入してきて警報が鳴った。

しかしその混乱を飯田くんが非常口になって落ち着かせた。

そして委員長を飯田くんに譲った。飯田くんの方が似合ってるし

ね。

その日の夜

瀬呂の家

「なあ？お前いつのまにサナギになった？」

「コクーン……」

捕まえたビードルがサナギになっていた。明日緑谷に聞くか。

次の日↑そこ、早いとか言わない。

PM0:50

相澤先生が説明する。

「今日のヒーロー基礎学だが、俺とオールマイト、そしてもう1人の三人体制で見ることになった。」

「ハーイ！何するんですか？」

その質問に答える。

「災害水難なんでもござれ『人命救助訓練』だ！今回コスチュームの着用は各自の判断で構わない。中には活動を限定するコスチュームもあるだろうからな。訓練場は少し離れた場所にあるからバスに乗っていく。以上準備開始。」

移動中

「水難事故、土砂災害、火事……e t c. あらゆる事故や災害を想定し僕が作った演習場です。その名も……ウソの災害や事故ルーム！」

スペースヒーロー『13号』先生が説明してくれる。

「えー、始まる前にお小言を1つ二つ三つ四つ五つ……。」

(増える……。)

「皆さんご存知だと思いますが僕の個性は『ブラックホール』どんなものでもチリにしてしまいます。簡単に人を殺せる力です。皆の中にもそういう個性がいるでしょう。人命の為に個性をどう活用するかを学んでいきましよう。君たちの力は人を傷つける為にあるのではない。助ける為にあるのだと心得て帰ってくださいな。以上、ご清聴ありがとうございました。」ペコ

13号先生がとても良い話をしてくれた。  
すると下の方から嫌な気配を感じる。



突然相澤先生が叫ぶ。

「一かたまりになつて動くな！13号！生徒を守れ！」

「なんだアリア!?また入試みたいにもう始まったんぞパターン？」

「動くな！あれは敵だ！」

ヴィランは話し始める。

「13号にイレイザー・ヘッドですか：先日いただいた教師側のカムキュラムではオールマイトもいるはずですが。」

「どこだよ：せつかくこんな大衆引き連れてきたのにさ。子どもを殺せば来るのかな？」

相澤先生が下に向かいモンスターボールを投げる。中からはニヤヒートが出てくる。

「頼んだぞ、タマ。『かえんほうしゃ』！」

ニヤヒートが『かえんほうしゃ』を放ち敵をけん制する。

皆で避難しようとすると思いの霧のヴィランにさまざまな場所にバラバラにされてしまった。

突然水の上に現れてボールを投げミロカロスを出して落ちずに済む。近くの船の上上がる。水の中にはヴィランが沢山いる。船には蛙吹さんと峰田くんがいた。

「大丈夫？蛙吹さん。」

「梅雨ちゃんと呼んで。しかし大変なことになったわね。」

「奴らにオールマイトを倒す術があるんなら僕らが今：戦って阻止すること！」

飯田 side

「皆は!?いるか!?確認できるか!？」

障子くんが答える。

「散り散りになっているがこの施設内にいる」

13号先生が話しかけてくる。

「委員長！」

「は!!」

「君に託します。学校まで駆けつけてこの事を伝えて下さい。」

「しかし、クラスを置いていくなど委員長の風上にも……！」

「行けって、非常口！」

「外にさえ出られりや追っっちゃこねえよ！お前の脚でモヤを振り切れ！頼んだぜ、コクーン！」

砂藤くんと瀬呂くんが答える。13号先生が言う。

「救う為に個性を使ってください！」

麗日くんも答える。

「食堂の時みたたく…サポートなら私超出来るから！する！から！お願いね、委員長！」

「手段が無いとはいえ敵前で策を語る阿保がいますか。」

ヴィランの発言に13号先生が答える。

「バレても問題ないから語ったんでしようが！頼みました、ミカルゲ、シャドーボール！」

13号がポケモンを出す、

しかしその後13号先生はワープゲートによりやられてしまう。

「くそう！」

黒い霧が前に立ち塞がる。

「コクーン！『どくばり』！」

ヴィランがどくばりで怯む。しかし攻撃を受けてしまう。するとコクーンが光り出す。

「何が起こった!?!」

ヴィランは驚く。

サナギは羽化してニュースでよく見た巨大な蜂になった。

「進化か!?スピアー、飯田について行って行って援護しろ！」

瀬呂くんが命令する。スピアーは頷き自分を守るように飛んでくる。

早く先生達を呼んでこなくては！

飯田 side END

峰田くんが叫ぶ。

「何が戦うだよ！矛盾が生じてるぞ緑谷！」

「オールマイトを殺せるならこの水難ゾーンに蛙すっ…梅雨ちゃんが移動させられてるっ点がおかしい。つまりヴィランは僕らの個性を

分かってないんじゃないかな?」

梅雨ちゃんが答える。

「なら策はあるのかしら?」

梅雨ちゃんのボールからケロマツが出てくる。

「あるよ。ミロカロス、水面に向かって『りゅうのはどう』!」  
りゅうのはどうが水面にぶつかり水飛沫が上がる。

バシャーン!

「峰田くん、もぎもぎを投げ込んで!」

峰田くんは泣きながら

「ヤケクソだ! やってやら!」

ケロマツがヴィランを水中からこっさり押ししてどんどんくっつけていく。そしてヴィラン達にもぎもぎがくっつきひとつにまとまる。

「ミロカロス、『れいとうビーム』!」

ヴィラン達は氷に閉じ込められた。

そのまま広場に向かう。水の中から様子を見ると黒いヴィランに相澤先生が腕をぐしゃぐしゃにされていた。

ニヤヒートはボールに戻したらしい。

「対平和の象徴 改人『脳無』! 個性を消せる。素敵だけどなんてことは無いね。」

そこに黒い霧が現れる。

「死柄木 弔」

「黒霧、子供達は怎么样了。」

「13号は倒しましたが1人逃げられました。」

「はあ、お前がワープゲートじゃ無ければばらにしてやったのによ! ゲームオーバーだ。今回はゲームオーバーだ。帰ろっか。その前に矜持をへし折って帰ろう。」

梅雨ちゃんに掴みかかろうとした為グライオンを繰り出してまもる。

「まあ良い、脳無殺れ。」

グライオンに殴りかかってくる。

「グライオン、避けてアクロバット!」

しかし攻撃が全く効かない。

「脳無にそんな攻撃効かないよ。」

死柄木という奴が答える。

「だったら、『ハサミギロチン』！」

見事に命中して脳無は前のめりに倒れる。困った時は運ゲーに限る。

「なんで脳無がアツサリ!？」

そのあとすぐに

『私が来た!』

オールマイトが現れる。その場のヴィランを全て倒した。

「1-Aクラス委員長 飯田天哉! ただいま戻りました!」

飯田くんとスピアーが先生達を連れて来た。死柄木は

「あーあ、来ちゃった。ゲームオーバーだ。黒霧出直すぞ。」

しかし13号先生に引っ張られながらもワープゲートで消えてった。

「今度は殺すぞ。平和の象徴『オールマイト』。」

そう言って居なくなつた。

## 政府の対応

ポケモンが突然出現した日

私は現日本の総理大臣の渡辺獣郎だ。個性は『獣化』。様々な動物になれる個性だ。私は誰に説明してるんだ？

「総理！大変です！」

私が朝早くから書類の整理をしていたら秘書がやってきた。

「なんだね、朝早くから。」

「そ、それが！え、えつとですね！」

秘書はテンパって何言ってるかが分からない。私はお茶を出して、

「とりあえず、これ飲んで落ち着け。」

「は、はい。アチっ！」ゴクゴク

どうやら落ち着けたみたいなので聞いてみる。

「それで何にそんなにテンパっていたんだ？」

「それは日本中の動物や虫が全て謎の生き物になっていたんです！」

「な!?!?どういう意味だ!?!」

私は慌てて聞く。

「謎の生き物と言っても姿などは元の動物の見た目は残ってるのですが、電気を発する40センチ程度の黄色いネズミ、1メートルはある巨大な蜂、牧場の牛は雌はピンク色の牛に、雄は茶色いツノのある闘牛のような奴に、噂では虹色の光を出して飛ぶ巨鳥を見たとの話もあります！」

ますます分からん。電気を発するネズミって生物的に大丈夫なのか？

「とりあえず、日本全国のヒーローから情報を集めるんだ！それと日本全国の人に事が収まるまで外出を控えるように伝えるんだ！」

「わ、分かりました！」

秘書は退出していく。これから忙しくなりそうだな。

数時間後

自分の机の上には日本中のヒーローから集めた書類が山のように積み重なっている。これを一人でやるのはキツイ。秘書を呼び、手

伝ってもらおう。

「これはシンリンカムイからか。巨大蜂の情報、それと3メートル近いあられをふらす恐竜を操る少年の事か……………何!?!」

少年が恐竜のような奴を操っていたというのか?後あられをふらすとはどういう意味だ?

「こっちはフィットガムからか。空に四本の鋼の足を持つ金属のような生き物が飛んでいたと。ビルに登り正面から見ると顔にはでかいばつ印があつたと。更には物を浮かべる力を持つか。」

全身が鋼つて生き物と呼んでいいのか?

「これはリューキュウから。全身に大きいウロコが付いたドラゴンが全身緑色の怪獣と戦っていたと。そこは何故か砂嵐が吹き荒れていたと。周りは被害が甚大な為、止めようとしたがウロコのドラゴンが謎のノイズを打ち出し、大ダメージを受けた。」

砂嵐が吹き荒れる戦いつてやばくね!?!ノイズで大ダメージとかやバイな。

「プツシャーキャッツから。私有地の山に巨大イモムシやケムシ、葉っぱの繭を細くて葉っぱの手を持つ生き物が子育てをしていた。」

これは和むな。そんな事を思ってる場合では無いな。

「これは雄英高校からか。ん?ビデオレターか?」

袋から空中投影装置を取り出してスイッチを入れる。

『やあ、渡辺くん。ネズミなのか犬なのか熊なのかかくしてその正体は根津校長さ!渡辺くんがあの子達を調べているようだからこれを送らせてもらったよ。私の手に入れた情報はあの子達の総称は《ポケットモンスター》縮めて《ポケモン》さ!このモンスターボールと言う物に入ってしまったらポケットに入ってしまうからそう呼ぶのさ!』

紅白のボール見せながら説明してくれる。

ポケモンか…………。と言うかその情報を何処で手に入れた?

『君の事だから何処でその情報を手に入れたと思っっているだろう。』

分かっているなら説明しろよ。

『やり過ぎると君が怒りそうだから説明しよう』

分かってるならやるなよ。

『それはある少年、《緑谷出久》からの情報さ。彼はポケモンについての情報を持っていた。ポケモンは陸、海、空、地中、街、更には宇宙に  
いるものもいるらしい。それ以外の説明をすると長くなるから明日  
ぐらいに緑谷君に総理官邸で説明をしてくれるそうだ。その時に  
質問は聞いてくれ。後ポケモンとプレゼント・マイクが戦ったDVD  
をつけておくよ。頑張ってくれよ。』

投影装置から光がきえる。

とても有力な情報が手に入った。明日が楽しみだな。それまでに  
この書類の山を終わらせるとするか。まだ三分の一も終わってない  
が。

終わったのが夜中になったのはいうまでも無い。

## 政府とポケモン

今日は雄英高校が見つけた『ポケモン』とやらに詳しい少年が来るらしい。ここで合流して車で国会議事堂まで移動する予定だ。

すると上空から頭が三つある黒いドラゴン？が飛んできてその背中から緑髪の少年が降りてきた。

「ありがと、サザンドラ。戻って。」

紅白のボールに黒いドラゴンが入ってしまった。完全に物理法則を無視しているな。

「君が緑谷出久かい？私は首相の渡辺獣郎だ、よろしく」

「緑谷出久です。」

簡素な挨拶で済まし国会議事堂に車で移動する。

緑谷君は車の中をキョロキョロしている。

「そんなに車が珍しいかい？」

「いやー、ほとんど車なんて乗りませんでした、移動はポケモンでしていたので。」

車に乗らないなんてこの社会であり得るのか？とてつもない田舎なのか？

「ちなみにさっきの黒いドラゴンもポケモンかい？」

私はさっきの黒いドラゴンについて聞く。

「そうですね。サザンドラって言っときょうぼうポケモンです。」

「きょうぼうポケモン？」

きょうぼうって凶暴という意味だよな？

「ちなみになんでそう言われているんだい？」

「なんでと言われても凶鑑に書いてありますし。」

懐からタブレットを取り出してスワイプして私に画面を見せてくる。そこにはサザンドラの姿、高さ、重さ、タイプ？と説明文が書かれていた。そこには

『うごく ものに はんのうしておそいかかり 3つの あたまでく  
らいつくす おそろしい ポケモン。』

と書かれている。



私はそのタブレットに釘付けになっていた。そんなことをしているうちに国会議事堂に到着した。

その前には記者や報道陣が詰めかけていた。カメラの光を眩しいと思いつながら緑谷君を連れて中に入る。

とりあえずある部屋に緑谷君に居てもらう。

十分後

国会議事堂で国会中継が始まった。この超常の世界で国会中継をするなどあまり無い。

ほとんどがヒーローについてのニュースが流れる。オールマイトやオールマイトやオールマイトが流れる。

国会の机と椅子は半分程度片付けられている。その半分に議員達が座っている。何人かはみ出てるが。

更にこの国会中継が高視聴率を達成した。そりやそうだ。突然現れたポケモン達についてが分かるのだから。

そして緑谷君が入場してきた。少し緊張しているらしい。

議員達は

「あんな少年が知っているのか？」

「デマ掴まされたんじや？」

など話している。

そして委員長により国会が開会した。

そのまま私が昨日収集した情報を発表する。

「私が昨日収集した情報によりますとヒーロー シンリンカムイからは『巨大な蜂』と『あられをふらす恐竜』、ファットガムからは『サイコパワーを使う鋼の生き物』、リューキュウからは『緑色の怪獣』『全身に大きな鱗のついたノイズを飛ばすドラゴン』などがそれ以外にもさまざまな情報があります。それらの生き物をポケットモンスター縮めてポケモンと言います。この情報は雄英高校の根津校長からです。」

すると質問が議員の1人から飛んでくる。

「渡辺首相に質問します。そのポケモンとやらの情報は姿だけですか？」

「それは今回の主役の緑谷出久さんに頼みましょう。お願いできますか?」

「とりあえずあの凶鑑の情報を見せてくれると助かる。」

「写真より実物を見たほうが良いですよね?」

「は?」

「ここにスペースがあるじゃないですか。そのために開けておいたんですよ?みんな、出ておいで!」

緑谷君が六つのボールを投げる。

その中から スピアー、アマルルガ、メタグロス、バンギラス、ジャランガを出す。

議員達は驚き声が出ていない。

その頃ネットの掲示板では

「なんだ、今の!?!」

「物理法則を無視してる!?!」

「訳がわからないよ。」

などのコメント。

「こいつは『スピアー』。どくばちポケモンで『しゅうだんで あらわれる』こともある。もうスピードで とびまわりおしりの どくばりで さしまくる。』。毒を持つので危険なポケモンですね。懐けば心強いですよ。」

ポケモンの説明を凶鑑も見ないで説明してくる。どうやら全部頭に入っているらしい。

「こつちが『アマルルガ』。ツンドラポケモンで『ひしがたの けつしょうで こおりのかべを しゅんかんできに つくりてきの こうげきを ふせぐのだ。』。化石から蘇ったポケモンで、自分の大切な仲間の一匹です。」

今気づいたが化石から蘇ったと言ったような。

「こつちは『メタグロス』。てつあしポケモンで『4つの ツメとおおきな からだでえものを しっかり おさえつけるとおなかのはで バリバリ かじる。』。サイコパワーをも操るポケモンです。」

「こいつは『バンギラス』。よろいポケモンで『かたうでを うごかし

ただけでやまをくずし　じひびきを　おこすとてつもない　パワーを　ひめる。』。ヤバイポケモンですよね？こいつ以外にもまだいますけどね。」

ヤバイよー！そんなヤバイ奴いっぱいいるの!?

「最後は『ジャラランガ』。うろこポケモンで『てきを　みると　しつぽの　ウロコをジャラジャラ　ならして　いかく。　よわいものはあわてて　にげだす。』。ちなみに専用技『スケイルノイズ』が使えます。」

ごめん分かんない。

ほかの議員達も頭を抱えていた。

そのあとポケモンについてやモンスターボールについてなど様々な質問が飛んできた。伝説のポケモンなどの情報が出たが規模がでかすぎてよく分かんなかった。

その後国会が緑谷君からモンスターボールを適正価格でいくつか売ってもらうことになった。結構安かった。中には高いボールもあつたが。

ポケモンにはポケモンで対応するのが良いらしいので日本全国のヒーローにモンスターボールを支給することになった。

私もポケモンを使う時が来るのだろうか？

数日後

秘書が

「首相、アメリカからポケモンについての共同研究の依頼が来ています。」

「流石にこの問題は国内で解決する。他の国からは来ているのか？」

「はい、中国、韓国、イギリス、フランス、ドイツ、ロシアからも来ています。」

ポケモン達を軍事に使いたいだけだろうな。

「それと、中国からきた密売人の船がポケモンを乗せていたら日本海で沈んだそうです。」

「それで原因は？」

「突然船の前に白い鳥のようなポケモンが海から現れて風の玉を打ち込まれたそうです。」

緑谷君の言っていた伝説のポケモンとやらなのか？まあこれからこの国は大変だな。

今はモンスターボールの量産を目標に頑張るとするか。

## A組数人の日常

出久side

昨日のことで今日 学校は臨時休校だ。

「今日は特訓でもしようかな？出たおいで、みんな！」

ボールからジュナイパー、アマルルガ、グライオン、サザンドラ、クチート、ミロカロスを庭に出す。

「特訓でもっと強くなるぞー！」

そのまま夜までやっていた。

緑谷sideEND

麗日side

「昨日は大変だったな、ミミツキュ」

ミミツキュの頬？の赤いところをつつく。

『ミミツキュー！』

くすぐったいのかミミツキュが自分の頭の上に飛び乗る。もう可愛いなく。  
グウ~~~~っ！

自分の腹の虫が鳴く。

「あかん、お腹減った。」「ミミツキュー！」

ミミツキュもお腹空いたらしい。台所の冷蔵庫を見ると、お餅が無くなっていた。野菜はあるが肉が少ない。

「なんか、買いに行こうか！」

財布と手提げバッグを持って家を出る。ミミツキュは頭の上だ。どこ行こう。スーパーでいいか。

移動中

「安いのがないかな？あ、お餅が安い。」

賞味期限が近いのか半額になっていた。結局お餅が安定するんだよね。

『ミミツキュー！』

ミミツキュが頭から降りて何かを持ってきた。丸い飴玉がいくつか入った容器だった。

「なに？食べたいの？」

『ミミツキュー！』

値段も手頃だし買ってあげよう。食べたそうにしてるからガツカリさせたく無い。

そのラムネも籠に入れてお餅も入れる。そのまま肉のコーナーに向かう。なかなか割引のお肉が無い。

「少しは肉がないと辛いからな。」

すると店員さんが鳥モモ肉に三割引のシールを貼っていた。勿論賞味期限が近いが冷凍すれば関係ない。

それを籠に入れてレジに行く。ミミツキュは頭の上にいる。

そのまま会計を済ませて家に帰る。

家に帰るとミミツキュが飴玉をくれとせがんでくる。

容器から飴玉を一粒取り出してあげる。

『ミミツキュー！』

ミミツキュが喜んで食べる。すると耳に『テテテテン！』と聞こえた気がした。多分気のせいだよな？

自分はオーブンでお餅を焼いて食べた。

麗日 side END

八百万 side

今日の勉強が終わりましたわ。すると自分のクッションの上にヒトツキが寝ている。暇すぎたみたいですね。

私はスマホで緑谷さんから貰った写真を見る。

そこには通常色のヒトツキがいる。自分のヒトツキは剣の部分が赤い。布のような手も赤と水色になっている。

緑谷さんによるととても珍しい『色違い』らしいですね。どれくらい珍しいかと聞いたら1/4096匹ぐらいの確率らしいです。

すると執事がドアをノックしてくる。

「お嬢様、昼食の準備が出来ました。」

「今、行きますわ。」

執事に返事をして、ヒトツキを起こす。

ヒトツキは眠そうに浮かび上がる。

ヒトツキの昼食はいつも美味しい物を食べさせていますわ。今日は『ローストビーフ』ですわ。器用に自分の剣で切って食べています。ただし、ひとつだけ悩みが……

そのローストビーフ、10個目ですよね!?ちなみにひとつ200gですわ。更にそれ以外に緑谷さんに貰った『オボンの実』も10個以上食べているんですわ。どうにかならないでしょうか。

八百万sideEND

爆豪side

俺は今動くことが出来ない。ヒノアラシが俺の膝の上で寝ているからだ！

なんでかって？知るか、ボケ！俺だって知りたいわ！

『ヒノ〜』

鼻ちようちん膨らまして寝ていやがる。早く起きろや！

こいつ、寝ると中々起きねえんだよ！どかさうとすると嫌がって炎吹き出すんだよ！温度は低いが熱いんだよ！

「勝己、またかい?」

「うるせえよ！クソババア！」(小声)

「正直じゃないね。ちゃんと小声で話して。」

「早くあっち行けよ！」(小声)

早くどいてくれよ。

爆豪sideEND

相澤side

俺は現在怪我の治療が終わったところだ。あの婆さん(リカバリーガール)は大袈裟なんだよ。こんな包帯巻きやがって。

『ニヤヒート……。』

タマがボールから出て擦り寄ってくる。こいつは一ヶ月くらい前に家に帰る途中で弱っていたところを助けたら懐いた猫が突然光ってこの姿になった。

緑谷によると『進化』というものらしい。キャンセルも出来るらし

いが凶鑑が無いと出来ないらしい。まあ可愛いからいいか。  
「とりあえず、寝かせてくれ。」

懐からゴムボールを取り出して少し離れた場所に投げる。タマは  
それで遊び始めた。

とりあえず怪我の治療の為に寝ることにした。



## 雄英体育祭・プロローグ

翌日

「皆ーーーーー！朝のHRが始まる、席につけー！」  
「ついてるよ、ついてねーのおめーだけだ。」

飯田君の言葉に瀬呂君が突っ込む。

「お早う。」

相澤先生が顔に包帯ぐるぐる巻きで入ってくる。

「相澤先生復帰早えええ!!?」

「先生、無事だったのですね！」

クラスのツツコミの後に飯田君が先生に聞く。それに相澤先生が答える。

「俺の安否はどうでもいい。何よりまだ戦いは終わってねえ。」

クラスの皆が驚く。相澤先生は続ける。

「雄英体育祭が迫ってる！」

「クソ学校っぽい来たああ！」

クラスの皆が叫ぶ。そうか、雄英体育祭か。すると、

「待つて待つて！敵に侵入されたばっかなのに大丈夫なんですか!？」

その質問に相澤先生は冷静に答える。

「逆に開催することで雄英の危機管理体制が盤石だと示す……って考えらしい。警備は例年の五倍に強化するそうだ。何より雄英の体育祭は……最大のチャンス。敵ごときで中止していい催しじゃねえ。」

峰田君は中止しよと言っている。

「ウチの体育祭は日本のビッグイベントの一つ！かつてはオリンピックがスポーツの祭典と呼ばれ全国が熱狂した。今は知っての通り規模も人口も縮小し形骸化した……。そして、日本に於いて今『かつてのオリンピック』に代わるのが雄英体育祭だ！」

「当然、名のあるヒーロー事務所に入った方が経験値も話題性も高くなる。時間は有限、プロに見込まれればその場で将来が拓けるわけだ。年に一回……計三回だけのチャンス。ヒーロー志すなら絶対に外せないイベントだ！」

そして朝のHRが終わる時、相澤先生が話し始める。

「それと緑谷、昼休みに校長先生が校長室に来て欲しいそうだな。忘れないように。」

時間が過ぎてそして四限目の現代文が終わった。

校長室に来て欲しいみたいなので校長室に向かう。

移動中

扉を開けて校長室に入る。

「来てくれたね、緑谷君！君に頼みたいことがあって呼んだんだ。」

「頼みたいことって何ですか？」

根津校長に聞いてみる。

「今年の雄英体育祭は例年の五倍の警備にすると相澤君から聞いたよね？その警備に君のポケモンを使いたいんだ。特に上空も見張りたからね。」

それで呼んだわけね。たしかにまだポケモンが現れて一年経つぐらいだ。そんなにポケモンを使いこなす人はまだ少ない。

「良いですけど、どんな奴がいいんですか？」

「空を飛べて、強いポケモンだと良いかな。」

成る程、空を飛べて強いポケモンね。たくさんいるよ。

「何匹くらいが良いんですか？」

根津校長はうーんと悩んで答える。

「あんまり沢山居ると景観が悪いから二、三匹くらいかな？」

「二、三匹ですか。だったら彼らに頼みますね。」

「頼む？まあよろしく頼むよ。体育祭前日に呼びだしてもらえるかい？」

そのまま話が終わって食堂に向かってご飯を食べた。

放課後

1-Aの教室の前に人混みが出来た。敵情視察に来たのだろうか？

「意味ねえからどけ モブ共。」

「知らない人の事とりあえずモブって言うのやめなよ！」  
かつちゃんの言葉に飯田君が突っ込む。

すると人混みから1人の声が聞こえてくる。

「どんなもんかと見に来たがずいぶん偉そうだなあ。ヒーロー科に在籍する奴は皆こんなのかい？」

『ニヤッパ！』

目の下にクマがある普通科の生徒みたいだ。頭の上にはポケモンのニヤスパーが乗っている。

「こういうの見ちゃうとちよつと幻滅するなあ普通科とか他の科ってヒーロー科落ちたから入ったって奴けつこういるんだ知ってた？体育祭のリザルトによつちやヒーロー科編入も検討してくれるんだって。その逆も然りらしいよ。」

「敵情視察？少なくとも俺は宣戦布告しに来たつもり。」

この人結構大胆不敵だと思うなー。

すると人混みからまた別の声がする。

「隣のB組のモンだけどうよう！」

髪の毛が鉄のような男子が喋ってる。近くにはドーミラーが浮かんでいる。

「敵と戦ったつうから話聞こうと思ってたんだがよう！エラく調子づいちゃってんなオイ！」

また不敵な人が来た。それにかつちゃんは

「関係ねえよ……上に上がりや関係ねえ。」

完全に敵を増やしてるんだよね。その発言。

そして参加種目の決定、それに伴う個々人の準備。

二週間はあつという間に過ぎ、雄英体育祭当日がやってきた。

## 雄英体育祭・障害物競走

時間を少し遡って雄英体育祭前日のステージ

現在根津校長に頼まれた警備するポケモンを呼び出すところだ。

「フーパ、頼むよ。」

『イズクー！分かった、おーでーまーしー！』

金色の輪が大きくなりそこから緑色の龍『レックウザ』を呼び出す。根津校長と相澤先生が口をポカンとして驚いてる。

更にギラティナも呼び出す。そしてはっきんだまを持たせてフォルムチェンジする。

「レックウザ、ギラティナ、明日この上空で警備をお願い。怪しい奴が飛んでたり、したらぶっ飛ばしてヒーロー達に渡しておいて。」  
レックウザとギラティナは頷くと上空に向かって消えてった。

根津校長は

「これで空の警備は心配ないね。ありがとう、これはほんのお礼だよ。」

封筒を渡された。三万円入ってた。

時間は元に戻り雄英体育祭当日！

実況席からプレゼント・マイクが開催を宣言する。

『雄英体育祭！ヒーローの卵達が 我こそはとシノギを削る年に一度の大バトル！どうせ、てめーらアレだろこいつらだろ!?敵の襲撃を受けたにも拘わらず鋼の精神で乗り越えた奇跡の新星！』

『ヒーロー科！1年！A組だろおお!?』

自分はポケモンリーグとかに出ていたから特に緊張も無い。ポケモンリーグも同じくらいの人が居るし。

『B組に続いて普通科C・D・E組…！サポート科F・G・H組も来たぞー！そして経営科…』

そして主審のミッドナイト先生がポケモンのキノココが出てくる。

「選手宣誓！」

ムチを打ちながら言う。常闇君が言う言葉に峰田君が答える。

「18禁なのに高校にいいものか？」

「いい」

ミッドナイト先生は

「静かにしなさい！選手代表！1―A爆豪勝己！」

かつちゃんがマイクの前まで来て選手宣誓を言う。

「せんせー。俺が一位になる。」

「絶対やると思った！」

切島君が思わずつつこむ。

選手たちからブーイングがたくさん出る。

「さーて、それじゃあ早速第一種目行きましよう！」

ミッドナイト先生はブーイング関係なく話を進める。

「いわゆる予選よ！毎年多くの者が涙を飲むわ！さて運命の第一種目！今年は……コレ！」

モニターに大きく『障害物競走』と出る。

「計11クラスでの総当たりレースよ！コースはこのスタジアムの外周約4キロ！今年からはポケモンと協力してゴールを目指すのよ！我が校は自由さが売り文句！コースさえ守れば何をしたらって構わないわ！さあさあ位置につきまくりなさい……………」

スタート！」

「出てこい！サザンドラ！」

サザンドラをだして飛び乗る。そしてガラ空きのゲートの上部分を飛ぶ。

下を見ると轟君が地面を凍らせてその上をカチコールが滑って追いかける。その氷によって沢山の人が捕まっていた。

『さーて、実況していくぜ！解説アーユレディ!?ミイラマン！』

『ペラップー！』

『無理矢理呼んだんだろうが。』

実況はプレゼント・マイクとポケモンのペラップ、相澤先生みたいだ。すると人混みからA組の皆が飛び出してくる。

「そう上手くいかせてねえよ 半分野郎！」

常闇君は黒影で、芦戸さんはヤトウモリのひのこで、麗日さんはミツキユがかげうちで砕いたようだ。

すると目の前にレジロック、レジスチル、レジアイス、レジギガスのレジ系、その後ろにゴルーグ、ガチゴラス、バンギラス、テツカグヤ、空にランドロス、ボルトロス、トルネロスの霊獣フォルムが居る。『さあいきなり障害物だ！まずは手始め…第一関門、ポケモン・インフェルノ！』

「入試の時のポケモンが居るじゃねえか!?」  
「多すぎて通れねえ!」

轟君に向かってレジギガスが『にぎりつぶす』を放つが轟君の氷で塞がれ凍らされる。

すると金色の輪が現れてレジギガス手の の形にしてが輪の中に消えていく。

『ダウ〜ン……。』

なんだろう……。哀愁を感じる。そんな事より早く進もう。空を飛んでランドロス達が攻撃してくるが相殺して突破する。

下では轟君がポケモン達を凍らせて一抜けする。その後自分が抜ける。プレゼント・マイクが実況で種目の説明をする。

『第一種目は障害物競走!この特設スタジアムの外周を一周してゴールだぜ!ルールはコースアウトさえしなけりや何でもアリの残虐チキンレースだ!各所に設置されたカメラロボが興奮をお届けするぜ!』

後ろから爆発音が聞こえる。ポケモン達がそんな小さな爆発で倒れるわけ無いけどね。攻撃特化タイプ一致『だいばくはつ』ぐらいの火力が無いと。

どんどんサザンドラで突き進む。

## 雄英体育祭・障害物競走

みんなも第一関門を抜けていく。

そのまま飛んでいくと深い穴にロープが張ってある。

『オイオイ第一関門チョロいつてよ！んじゃ第二はどうさ!?落ちればアウト!嫌なら這いずりな!ザ・フォー!』

みんなサポート科がサポートアイテムを使っているところを見ているが自分はサザンドラで飛んでいく。

『一位は轟!二位は緑谷!三位は爆豪が追いついて来た!てゆうか緑谷……なんかずりいな……。』

『ペラップー!』

そろそろ妨害させて貰うか。サザンドラに後ろを向いて貰う。

「サザンドラ、『りゆうせいぐん』!」

空から多数の流星群が第二関門に降り注ぐ。そして《しろいハーブ》を使って下がった特攻を元に戻す。そのまま轟君を追いかける。

後ろから叫び声が聞こえるが無視する。

『緑谷!ポケモンによって一気に妨害をした!なんてゆうか技の範囲がエグいよな。これ大丈夫なのか?イレイザー・ヘッド?』

『説明でコースさえ守れば何でもアリだから大丈夫だ。』

そのまま障害物を飛んで乗り越える。

すると轟君とかつちゃんが第三関門に到達する。それに自分も続く。

『そして早くも最終関門!かくしてその実態は!?一面地雷源!怒りのアフガンだ!よく見りや地雷の位置は分かるようになってる!目と体を駆使しろ!』

成る程。地雷は飛んでいれば関係ないが妨害だけさせて貰うか。

『出てこい、ジュナイパー!数個の地雷に向かって『かげぬい』!』

ジュナイパーが数本の矢を構えて打ち出す。そのまま地雷にあたり爆発を起こす。

『緑谷!再び空から妨害だ!轟と爆豪が爆発によって少し足止めたぞ!』

ジュナイパーを戻して地上近くまで降りる。すると後ろからかつちやんが応戦してくる。

「出てこい、クチート! 『ふううち』!」

ふううちをモロに食らって押し戻す。そのままゴールに入る。

『さあさあ! 最初から予想できていたか!? 俺は出来た! 一番に戻ってきたのは緑谷出久だ!!』

「ありがとう、サザンドラ。ポフィンだよ。」

サザンドラにポフィンをあげてボールに戻す。

そしてどんどん戻ってくる。

『さあ次々ゴールインだ! ポケモン達も良くやったぜ!』

そしてミッドナイト先生が結果を発表する。

- 一位 A組 緑谷出久&サザンドラ
  - 二位 A組 轟焦凍&カチコール
  - 三位 A組 爆豪勝己&ヒノアラシ
  - 四位 B組 塩崎茨&ツタージャ
  - 五位 B組 骨抜柔造&カラカラ
  - 六位 A組 飯田天哉&ズバット
  - 七位 A組 常闇踏影&ヤミカラス
  - 八位 A組 瀬呂範太&スピアー
  - 九位 A組 切島鋭児郎&ココドラ
  - 十位 B組 鉄哲徹鐵&ドーミラー
  - 十一位 A組 尾白猿夫&リオル
  - 十二位 B組 泡瀬洋雪&マグマツグ
  - 十三位 A組 蛙吹梅雨&ケロマツ
  - 十四位 A組 障子目蔵&ワンリキー
  - 十五位 A組 砂藤力道&ペロツパフ
  - 十六位 A組 麗日お茶子&ミミツキユ
  - 十七位 A組 八百万百&ヒトツキ
  - 十八位 A組 峰田実&ベドベター
- 以下42名+ポケモン四十七匹



## 雄英体育祭・騎馬戦 チーム決め

42名の選手達が決まった所でミッドナイト先生から説明がある。「そして次からが本選よ！ここからは取材陣も白熱してくるわよ！キバリなさい！さーて、第二種目よ！」

巨大モニターにデカデカと騎馬戦と表示される。

「参加者は2〜4人のチームを自由に組んでもらうわ！基本は普通の騎馬戦と同じルールだけど違うことがあるわ！選手に先程の結果に従い各自にポイントがふりあてられること！与えられるポイントは下から5Pずつ、四十二位が5P 四十一位が10P……と言った具合よ！そして一位のポイントは1000万ポイント！上位の人ほど狙われる下克上サバイバルよ！」

自分のポイントが1000万ポイントって昔のクイズ番組かよ。そんなどうでもいいことを考えていると周りから視線を感じる。ポケモンリーグで慣れてるから別に気にしない。ミッドナイト先生が説明を続ける。

「制限時間は15分。騎手はポイントが表示されたハチマキを装着！終了までにハチマキを奪い合い保持ポイントを競うのよ！取ったハチマキは首から上に巻くこと！取りまくれば取りまくる程管理が大変になるわよ！そして重要なのはハチマキを取られても騎馬が崩れてもアウトにならないこと！個性あり、ポケモンありの残虐ファイト！でもあくまで騎馬戦！悪質な崩し目的での攻撃はレッドカードよ！これより15分！チーム決めの交渉かいし！」

”ハチマキ”を取り合うか……。あの手が使えるかな？後はあの人と組んでもらって……。

作戦は考えたので、組んでもらおうと思う人の所に行く。

「麗日さん、騎馬戦組んで貰えるかな？」

「わ、私?!私でいいなら。」

麗日さんと組み後はスピードが欲しいけど飯田君はもう組んでいく……。するとサポートメカを着込んだ人が近づいてくる。近くにはポリゴンが呆れ顔で浮かんでいた。

「私と組みましょう！一位の人！私はサポート科の発目明！ペラペラペラ……！」

最後の方は何言ってるか分からなかった。ペラッパより喋るな。すると沢山のサポートアイテムを見せてきて使っていていらしい。

あと一人どうしよう？足りないのは守備力なんだよね。ポケモンバトルなら『てっぺき』で事足りるけど個性ではあんまり意味ない。それを補えるのは

「常闇くん、組んでくれるかい？」

「俺か。いいだろう、上手く有効活用してくれよ。」

後は作戦だな。タブレットを取り出して今回はグライオンをしまつてあるポケモンを取り出した。

「よろしく頼むよ、『ヤミラミ』。」

そしてフーパの輪でバックを取ってきて中からあるものいくつかを取り出した。

そして15分経った。

プレゼント・マイクが実況を再開する。

『起きろイレイザー！15分のチーム決め兼作戦タイムを経てフィールドに12組の騎馬が並び立った！さア上げてけ鬨の声！血を血で洗う雄英の合戦が今！狼煙を上げる！』

自分のチームは前衛に常闇くん、左翼が麗日さんとミミッキュ、右翼は発目さんとポリゴン、騎馬は自分で頭の上に”ハチマキ”を巻いたヤミラミ、腰のボールにはクチートが居る。

「よろしくー！」

そして雄英体育祭の騎馬戦が幕を開けた。

## 雄英体育祭・騎馬戦

プレゼント・マイクの声が聞こえる。

『よおーし 組み終わったな!? 準備はいいかなんて聞かねえぞ! いくぜ! 残虐バトルロイヤルカウントダウン!』

3! 2! 1! START!』

ほとんどの騎馬が自分たちに向かってくる。

「ここは逃げるよー!」

逃げようとするすると地面に足が沈み始める。そういう個性みたいだ。でも無駄だよ。

「麗日さん、発目さん顔避けて!」

サポート科の発目さんのアイテムで空を飛ぶ。サザンドラで飛ぶ事もできるが全員を運ぶことは出来ない。すると黒影とヤミカラスが動いて何かを弾く。

「いいぞ、黒影。常に俺たちの死角を見張れ。」

『アイヨ!』

『カー!』

常闇くんも大活躍。着地の為に麗日さんが履いているサポートアイテムで着地する。

そこに障子くんが1人で向かってくる。騎馬戦なのに。

離れようとするすると麗日さんのサポートアイテムにもぎもぎがくつついて取れない。

「ここからだよ、緑谷あ……!」

障子くんの背中の複製腕のスキマからのぞいてくる。そこからカエルの舌も出てくる。梅雨ちゃんも居た。

『峰田チーム、圧倒的体格差を利用して戦車だぜ!』

空を飛びサポートアイテムを引きちぎりその場を離れる。飛んでいくとそこに飛んできたかつちゃんが来る。

爆発を起こすが黒影が守ってくれる。

かつちゃんは瀬呂くんが回収する。

『騎馬から離れたぞ?! いいのかあれ!』

なんとか着地したがその近くには轟くんチームが待ち構えていた。  
「そろそろ奪るぞ、緑谷。」

「そんなのさせないよ。」  
持っていたバツクから色々取り出す。

すると轟くんが飯田くん達に話しかける。飯田くんが走り出しそれと同時に上鳴くんが

「無差別放電130万ボルト！」

個性 帯電での攻撃をしてくる。周りから近づいていた騎馬を止める為みたいだ。

そしてその隙に轟くんが八百万さんが作った棒を伝って氷結で足を凍らせる。

「今だ！ヤミラミ、『トリック』！」

ずっと待機待機させていたヤミラミに指示を出す。轟くんのハチマキと拘りハチマキをトリックする。

周りの騎馬が凍り動けなくなる。そのせいでフィールドが狭い円形に囲まれてしまった。時間は後五分。

すると飯田くんがとても早く動き通り過ぎる。その隙にハチマキを取られる。

『何が起きた!? 飯田、そんな超加速があるなら予選で見せろよ!』というか、緑谷、いつのまに轟チームのハチマキ取ったんだ!?

ヤミラミのハチマキを頭に付けとにかく早くハチマキを取り返す。轟くんもハチマキに気づく。しかしハチマキは外れない。

「行くよ、クチート！メガシンカ！」

ボールからクチートを出してメガシンカする。ちなみに重さは麗日さんが浮かしているので問題ない。

「クチート、轟くん達に『じゃれつく』！」

轟くんが氷で牽制しようとするが氷はさつき凍らせた円形のように流れる。そのせいでまともに『じゃれつく』を食らう。

今回は轟くんが出す氷の方向を拘らせた。拘りスカーフや拘りメガネでやるのが普通だけど、メガネだと轟くんの火力を上げちゃうし、スカーフだと素早さが面倒だからハチマキにした。ちなみにかつ

ちゃんなら拘りメガネを持たせるといい。

轟くん達がふらつく。クチートのタイプ一致ちからもち補正ありのじゃれつくを耐えるのは凄い。まああっちの世界だとザラにいるからな。

クチートが戻って来る。ハチマキは取れなかったみたいだ。そこに氷の壁を壊してかっちゃん突っ込んでくる。飛び上がってこっちに来る。

『TIME UP!』

かっちゃんはタイムアップがかかると何故か勢いが無くなりそのまま地面にダイブする。

『早速順位を見てみようか!』

一位! 轟チーム!

二位! 爆豪チーム!

三位! 鉄て…アレエ!? オイ! 心操チーム!? いつのまにか逆転してたんだよオイオイ!

四位! 緑谷チーム! 以上4組が最終種目へ進出だー!』

『一時間程昼休憩を挟んでから午後の部だぜ! じゃあな! オイ、イレイザーヘッド飯行こうぜ!』

『タマと遊ぶ』

『ヒュー…遊ぶんかい!?!』

## 雄英体育祭・昼休憩・トーナメント決め

### 昼休憩

自分は少し広い場所に行ってボールを投げる。  
みんなにご飯を上げるためだ。

ジュナイパー、サザンドラ、ミロカロス、アマルルガ、グライオン、クチートが美味しそうにポケモンフーズを食べる。

自分も近くの出店の焼きそばを買ってきてベンチに座り食べ始める。

そこに相澤先生が来る。

「緑谷、隣いいか？」

合理的がモットーの相澤先生が珍しい。相澤先生はボールからニヤヒートを出す。

「緑谷、頼みがあるんだが……。」

「何モグですモグかモグモグ？」

「食ってから話せ。」

とりあえず頼みってのは何だろう？

「頼みって何ですか？」

「緑谷、ポケモン凶鑑を貸してはくれないか？俺にも分からないポケモンが居るから説明出来るようにしておきたい。この後解説もあるしな。」

成る程。そういうえばバックの中にお古の凶鑑があるな。

「自分の今使ってるのは貸すことは出来ないですけど自分のお古で良いならあげますよ。」

「あげる？良いのか？」

「自分のは最新式のですから少しバージョンは落ちますが十分使えますよ。」

「しかし、生徒から珍しい物を貰う訳には……。」

そりゃそうか。ならね……。

「じゃあ、一万円で譲りますよ。根津校長からの依頼ということにして。」

「成る程な。根津校長には今日のうちに話しておく。明日以降根津校長にお代を請求してくれ。」

バックからお古の凶鑑を取り出して相澤先生に渡す。それから使い方を説明して相澤先生と別れた。

昼休憩終了

プレゼント・マイクの実況が始まる。

『最終種目発表の前に予選落ちの皆へ朗報だ！あくまで体育祭！ちゃんと全員参加のレクリエーション種目も用意してんのさ！本当はアメリカからチャリダーも呼ぶ予定だったが一年前ポケモンが出現した事により中止だが日本のチャリダーをちゃんと呼んだぞ！ん？アリア？』

マイクの言葉が止まるその先にはチャ衣装を着たA組の女子が居た。

皆暗い顔をしているが。

『どーしたA組!?!本場が来ないから代わりにやってくれたのか!?!』

八百万さんが叫ぶ。

「峰田さん、上鳴さん！騙しましたわね!?!」

葉隠さんはやる気マンマンのようだが。

『さあさあ皆楽しく競えよレクリエーション！それが終われば最終種目！進出チーム総勢16名からなるトーナメント形式！ポケモン達と一緒に二対二のガチポケモンバトル!』

去年の雄英体育祭を見てないから知らないけどポケモンを入れたガチバトルか。するとミッドナイトがくじ箱を出して説明する。

「それじゃあ組み合わせ決めにくじ引きしちゃうわよ。組が決まったらレクリエーションを挟んで開始になります。レクに関しては進出者16人は参加するもしないでも個人の判断に任せるわ。んじや一位チームから順に…」

「あの一すみません。俺 辞退します。」

『オルツ』

尾白くんとリオルが手を挙げて辞退を表明する。理由は騎馬戦の記憶がボンヤリとしかないらしい。訳わかんないまま争ってきたと

ここに並ぶなんて出来ないらしい。

するとB組の庄田二連撃くんとバルギーも同じ理由で棄権するみたいだ。ミッドナイトは好みで棄権を認めた。好みで決めるな。後二連撃くんの名前のインパクトが凄い。(小並感)

「繰り上がりで五位の拳藤チームからだけど……」

ミッドナイトが聞くと拳藤さん？が答えて最後まで頑張っていた鉄哲チームに譲った。そして組はこうなった。

左から

緑谷V S 心操

轟V S 瀬呂

塩崎V S 上鳴

飯田V S 発目

芦戸V S 青山

常闇V S 八百万

鉄哲V S 切島

麗日V S 爆豪

確か心操って……まあいいか。

『よし、それじゃあとーナメントはひとまず置いておいてイッツ束の間、楽しく遊ぶぞレクリエーション！』

レクリエーションの借り物競争で分かる人には分かって分からない人には分からない物が混じっていた。ちなみに自分がこっそり混ぜておいた。バレなきや犯罪じゃ無いんですよ。

ちなみに入れたのは

・バコウの実

・いのちのたま

・きんのだま×2

・かわらずのいし

これは話に一切関係ないのであしからず。



## 雄英体育祭・トーナメント1回戦

雄英スタジアムの真ん中が四角く空いてそこから岩がいくつか出て岩山ステージが出現する。

半年くらい前に根津校長にポケモンリーグのフィールドの話をしたら作ってしまったらしい。よく作れたな。岩山以外にも『草原』『水上』『森』など色々なステージがある。

『ヘイガイスアアユウレデイ!?色々やってきましたが結局これだけガチンコ勝負!頼れるのは己とポケモンのみ!ヒーローで無くともそんな場面ばかりだ!分かるよな!心・技・体に知恵知識!総動員して駆け上げれ!』

プレゼント・マイクの実況が始まる。そして自分と心操が入場する。

『1回戦!ポケモン達との絆は無限大!ヒーロー科 緑谷出久!対!ごめん まだ 目立つ活躍無し!普通科 心操人使!』

ルールは簡単!相手を場外に落とすか行動不能にする あとは「まいった」とか言わせても勝ちのガチンコだ!ポケモン達は場外に出ても問題ないぜ!ケガ上等!こちとらリカバリーガール&ラッキーが待機してつから!道徳倫理は一旦捨ておけ!

だがまあもちろん命に関わるよ!なのはクソだぜ!アウト!ヒーローは敵を捕まえる為に拳を振るうのだ!両者ポケモンを出せ!』

「頼んだよ!ジュナイパー!」

自分の1番の相棒を繰り出す。

「行ってくれ、ニヤスパ!」

心操はニヤスパを繰り出す。

『そんじゃ早速始めようか!』

「まいったか:分かるかい、緑谷出久。これは心の強さが問われる戦い」

心操が話し掛けてくる。それには答えない。ポケモン達にご飯をあげる前に尾白くんから教えてもらった。

「あの猿はプライドがどうか言っていたけど……」

『レディイイイイSTART!』

「チャンスをドブに捨てるなんてバカだと思わないか？」

尾白くんをバカにしてくる。すると思わず

「なんて事言うんだ！」

答えてしまった。しかしすぐにジュナイパーが自分の頭に擬似かわらわりを打ち込まれ正気に戻る。

『緑谷、いきなり完全停止したかと思ったがジュナイパーによって元に戻る！いい相棒だな!?!』

心操は驚く。

「ありがとう、ジュナイパー。行くよ！」

「本当にいい奴を持つてるよな。お前は。」

心操は話しかけて来るが答えないでジュナイパーとアイコンタクトを取る。ジュナイパーは翼を緑色の剣のように変え、心操を切りさく。

「くつ、ポケモンで挑んでくるか。ニヤスパー、『ねんりき』！」

ジュナイパーが『ねんりき』で浮かび上がり地面にぶつける。ジュナイパーはすぐに立ち上がる。

『緑谷、心操共にポケモン達で戦い始めたぞ!』

「なんとか言えよ！アイコンタクトで凄いやな！俺はこんな個性のお陰でスタートから出遅れちまったよ。恵まれた人間には分からないだろ。」

恵まれた人間か。自分もポケモンと出会わなかったらここには居なかったかもしれない。ジュナイパーにアイコンタクトを送るとジュナイパーの周りに剣が現れ打ち合って消える。攻撃を二段階上げる『つるぎのまい』だ。

「なんか答えろよ！ニヤスパー、『チャームボイス』！」

自分に向かってチャームボイスが飛んでくるがジュナイパーが身を呈して守る。再びアイコンタクトで命令する。

羽から矢を取り出し構えてニヤスパーに打ち出す。ニヤスパーの影に刺さり大ダメージを与える。

ニヤスパーはボロボロになりながらも立ち上がると突然光り出す。

「な、何がおこった?」

『なんだ!?心操のニヤスパーが突然光り出したぞ!』

プレゼント・マイクが驚く。それにイレイザー・ヘッドが答える。  
『進化だ。ポケモンはある条件を満たすと進化をする。それが今だったのだろう。』

光りが収まるとそこには濃い青色の猫のポケモンが立っていた。

イレイザー・ヘッドのマイクから図鑑説明が聞こえてくる。

『ニャオニクス(オスの姿)よくせいポケモン。ニヤスパーの進化系。きけんが せまると みみを もちあげ10トン トラックを ひねりつぶすサイコパワーを かいほうする。』

ニャオニクスは耳を持ち上げるとジュナイパーの周りに濃いピンクの玉が現れ打ち込む。おそらく『サイコショック』を覚えたのだろう。

心操は驚いているがすぐに正気に戻る。

自分はZクリスタルを取り出してZリングにつける。そしてゴーストZのポーズを取るとジュナイパーにZパワーが宿る。

ジュナイパーの繰り出す全力のZ技!

『シャドーアローズストライク』

ジュナイパーが矢をたくさん出して空に飛び立つ。そのまま矢と一緒にニャオニクスに突っ込んでいく。そして落ちた矢が爆発する。

近くにいた心操がその爆風によって場外へ吹き飛ばされる。煙が晴れるとニャオニクスが目を回していた。

ミッドナイトが審判をする。

「心操くん場外!そしてニャオニクス戦闘不能!緑谷くん&ジュナイパー、二回戦進出!」

それを合図にプレゼント・マイクが実況する。

『二回戦突破!緑谷出久!初戦にしてはかなり熱い戦いだっただぜ!』

自分は心操くんに近づいて聞く。ずっと気になっていた事だ。

心操くんはニャオニクスをボールに戻す。

「心操くんはなんでヒーローに?」

「憧れちまったもんは仕方ないだろ。それとひとつだけいいか?」

「何？」

「お前、個性はなんだ？」

「自分は無個性だよ。でもポケモン達も別の意味では個性だよ！」  
「そうか。」

心操くんが少し笑ってみえたのは気のせいだろうか。

## 雄英体育祭・トーナメント

『お待たせしました！続いきましてはくこいつらだ！』

優秀！優秀なのに拭いきれぬその地味さは何だ！ヒーロー科 瀬呂範太！対！二位、一位と強すぎるよ君！同じくヒーロー科 轟焦凍！』

『ステージは平原だぜ！両者、ポケモンを出して！START！』

瀬呂くんがスパア、轟くんがカチコールを出した。

「まアー勝てる気はしねーんだけどつつても負ける気もねえー！スパア、ミサイルばり！」

肘からテープを出しつつスパアが針を飛ばして応戦する。轟くんがテープに捕まり場外に出されそうになるが突然巨大な氷が出現させる。スタジアムの屋根を優に超える氷山ができた。

「瀬呂くん、スパア、戦闘不能！」

ミッドナイトからの審判がかかると会場から『ドンマイ』コールがかかる。

「轟くん二回戦進出！」

とミッドナイトからかかる。

『ステージを交換して次の対決！ステージは氷上！B組からの刺客！キレイなアレにはトゲがある?!塩崎茨！対！スパークキングリングボーイ！上鳴電気！』

その解説に茨さんから反論する。

「申し立て失礼します。刺客とはどういうことでしょう。私はただ勝利を目指しここまで来ただけであり…」

『ごっごめん！』

プレゼント・マイク弱っ。

『両者、ポケモンを出して！START！』

上鳴くんがラクライ、茨さんがツタージャを出す。スタートがかかり、上鳴くんが帯電するが茨さんのツルに捕まる。

「やらせねえよ！ラクライ、『かえんほうしゃ』！」

ラクライが炎を口から吐きツルを燃やす。こないだ上鳴くん頼

まれて技マシンで覚えさせた。ステージが氷上のため茨さんがツルを切り離しても地面につくことが出来ない。

「まさかの炎ですか。ツター ज्या、『つるのムチ』！」

ラクライがムチで弾き飛ばされる。

「行くぞ、ラクライ！無差別放電十万ボルト！」

上鳴くんの無差別放電が全てラクライに落ちる。上鳴くんのラクライの特性は『ひらいしん』。電気技を全て自分に引き寄せ特攻をあげる。

ラクライはかえんほうしやを放ち茨さんを牽制する。

「ツター ज्या、『やどりぎのタネ』！」

ツター ज्याが種を発射して落ちた場所からツタが伸び上鳴くとラクライに絡みつく。

その隙に茨さんがツタを場外の地面に植え付けそこからツタで上鳴くんを捕獲する。上鳴くんが放電するが全てアースのように地面に流される。

そのままウエイ状態になり茨さんの勝利だった。

その後の飯田くんVS発目さんの試合は飯田くんが発目さんに騙されてサポートアイテムのプレゼンに利用されて叫んでいた。

青山くんVS芦戸さんの試合はロトムとヤトウモリのポケモン勝負だったがその隙に芦戸さんが青山くんのベルトを故障させアゴに一発。

常闇くんVS八百万さんの試合は常闇くんの先手必勝で八百万さんの準備したものを使わせなかった。

切島くんVS哲鉄くんの試合は完全個性ダダ被りの殴り合い。コドラとドーミラーもお互い体当たりの応酬でダブルノックアウトだった。

## 雄英体育祭

プレゼント・マイクの実況の声が聞こえてくる。

『一回戦最後の組だな…。中学からちよつとした有名人！堅気の顔じゃねえ！ヒーロー科 爆豪勝己！対：俺こつち応援したい！同じくヒーロー科 麗日お茶子！お互いポケモンを出せ！START！』  
かっちゃんも麗日さんがヒノアラシとミミツキユを出す。

麗日さんは速攻でかっちゃんに走り出す。それにミミツキユが続く。

かっちゃんは右の大振りの爆発で防ぐ。そこには怪我ひとつないミミツキユが麗日さんを守っている。

砂埃が舞い上がり麗日さんの姿が見えなくなる。

かっちゃんとヒノアラシが同時に一瞬見えた体操服に向かって爆発とひのこを放つ。そこには麗日さんはおらず後ろに回り込んでいた。

かっちゃんが爆発で浮かせてこようとする麗日さんをミミツキユがシャドークローで妨害する。

そのシャドークローでヒノアラシが吹き飛ばされる。

連続の爆発で麗日さんは攻撃を仕掛けられない。観客席のヒーローからブーイングが飛ぶが相澤先生が注意する。

すると空に麗日さんが浮かせていた瓦礫の無重力を解除する。

完全に流星群だ。タイプはいわタイプと見た。

その流星群をかっちゃんは特大の爆破で瓦礫を全て吹き飛ばす。麗日さんは爆発の爆風で吹き飛ばす。

麗日さんが再び立ち上がろうとするが倒れる。それをミミツキユが黒い手を出して受け止める。

『ミミツキユ！』

ミミツキユが大声で鳴く。ミッドナイトはその声で察して声を出す。

「麗日さん……行動不能。二回戦進出、爆豪くん。」

声援はわかかなかった。ロボが麗日さんをタンカに乗せて保健室に

向かう。それにミミツキユが付いていく。

『ああ麗日：：ウン、爆豪一回戦とつぱ。さア気を取り直して、一回戦が一通り終わった！小休憩を挟んだら早速 次行くぞー！』

控え室で麗日さんと少し話した。麗日さんは笑っていた。

その後腕相撲で切島くんと鉄哲くんの勝負は切島くんが勝ったそう  
うだ。

放送が聞こえてきたので自分も控え室から向かっていると途中で  
No. 2 ヒーロー（だったかな？）のエンデヴァーと出会った。

「すまん少し焦凍に会いにきたのだから会ってくれなくてな。とりあ  
えず、君のポケモンの実力は強いな。オールマイトにも匹敵する強さ  
だろうな。」

「そうですか、自分はこの辺で」

「そうか、すまなかった。」

横を通り過ぎてステージに向かう。

「うちの焦凍にはオールマイトを超える義務があるからな。」

そう聞こえた気がした。

ステージに立つとプレゼント・マイクの実況が始まる。

『今回の体育祭 両者トップクラスの成績！まさしく両雄並び立ち今  
！

緑谷！対！轟！』

『お互いポケモンを出せ！』

轟くんはカチコール、自分はアマルルガを繰り出す。すると空が曇  
りあられが降り始める。

『START！』

雄英体育祭二回戦が始まった！



## 雄英体育祭 轟VS緑谷

スタートと同時に轟君が氷結を放って瞬殺を狙ってきた。

「アマルルガ、『げんしのちから』！その後『フリーズドライ』！」  
げんしのちからを放ち相殺する。その後フリーズドライで攻撃させる。

「くっー！」

轟君はそれを避けて地面を凍らせてカチコールがその上を滑ってくる。そのあとに轟君が続く。

「カチコール、『たいあたり』！」

カチコールが自分に向かって攻撃を指示するが透明な壁に阻まれる。

「ナイスだよ、アマルルガ。」

轟君も氷を放ちながら攻撃を仕掛ける。巨大なアマルルガは避けられないが当たっても特に致命傷にもならない。

自分は避けに徹する。『リフレクター』にも限りがあるからね。

何度か攻防を繰り返していると轟君の身体に霜が降りて動きが少しずつ鈍くなっていつている。

「アマルルガ、轟君に『ふぶき』！」

アマルルガのふぶきが轟君にモロに当たる。そのまま場外近くまで吹き飛ぶが氷を出して食い止まる。

「轟君、動きが鈍ってきているよ。全力を出さないでこのまま行く気？そんなんじゃないや僕とアマルルガは倒せないよ。」

「親父の…、」

「それはエンデヴァーのカじゃやない！君の力なんだ！」

すると轟君は自分の左側から炎を出し始める。カチコールは驚いている。エンデヴァーが何か叫んでいるがよく聞こえない。

「やっを使う気になったんだね。だったらこれを受け取って！」

自分のポケットから黒い腕輪を投げる。それには氷の結晶の模様があるひし形のクリスタルが付いている。

「これは…っ。」

「Zリングさ。本当は試練をクリアしないとダメだけど今回だけは特別さ！それで君とカチコールの『ゼンリヨク』をみせてみる！」

轟君はカチコールと見つめ合い、頷く。

「敵に塩を送っておいて更に『ゼンリヨク』を見せろなんてふざけてるが、俺だってヒーローに…。」

轟君がそういうのを確認したところでコオリZのポーズを取る。轟君がそれを真似をする。

するとカチコールがZパワーを身にまとった。

「行くぞカチコール！俺らのゼンリヨクのZ技！」

『レイジング ジオフリーズ』！」

カチコールと轟君の足元から上に向かって氷の柱が伸びその上からカチコールと轟君が強力な冷気を放ちアマールガに向かって放つ。アマールガに命中すると巨大な冰山が出来上がりそれが砕け散った。

そのすぐ後、轟君の腕のコオリZは粉々に砕け散った。

冷気によって出た霧が少し晴れるとそこには胸の辺りに少し傷が出来たアマールガが立っていた。

「まさかアマールガが傷を付けられるなんてね、久しぶりだよ。アマールガ、トドメの『げんしのちから』！」

岩を生み出して轟君達に打ち出す。轟君はそれを炎で相殺しようとするこれまで散々冷えた空気が膨張して大爆発が起こった。

水蒸気が晴れると場外まで吹き飛んだ轟君とカチコールが見えた。

自分はアマールガの尻尾に捕まっている。飛ばされそうになって急いで掴んだ。

『轟くん、場外！緑谷くん、三回戦進出！』

## 雄英体育祭 準決勝 決勝

轟くんとバトルが終わった後スタジアムを見るとかっちゃんも切島くんのバトルだった。

バトルの方はかっちゃんも切島くんにカウンターを仕掛けたりして倒し三回戦に進出した。

『とうとうベスト4が揃ったぜ！次は準決！サクサクいくぜ！』

ポケモン達の強さは折り紙付き！緑谷出久VSエンジン全開、飯田天哉！』

自分はミロカロスを出す。

「頼んだよ、ミロカロス。」

飯田くんはズバットを出す。

『START！』

スタートと同時に飯田くんはレシプロバーストで加速して強烈な蹴りを放つ。ミロカロスは自分を守ろうとしてその蹴りをモロにくらう。

「ミロカロス、じこさいせい！」

受けた傷をすぐに回復する。傷がついてもすぐに回復で飯田くんの攻撃は一切通らない。

『飯田の攻撃がミロカロスによって止められる！傷ひとつ残らねえ！』

「ズバット、きゆうけつ！」

ズバットも参戦してくるがミロカロスの防御は突破出来ない。

飯田くんは蹴りを諦め、自分を掴み引つ張る。そのまま場外へ連れ出そうとする。

すると突然飯田くんの動きが止まる。すると足元に氷が張り付いている。

「なっ!?氷!?!」

「ミロカロス、ナイスなれいとうビームだよ。」

ズバットが氷を砕こうと噛み付いたりしているが砕けない。

「ミロカロス、トドメのハイドロポンプ！」

ミロカロスの口から勢いよく発射された水により飯田くんの氷を砕き場外まで吹き飛ばす。

『飯田、場外！緑谷が決勝進出だー！』

「やったよ、ミロカロス！」

ミロカロスは鳴きながら頭をすり寄せてくる。

「やめてよ、後でたっぷり遊んであげるから。」

ミロカロスをボールに戻してスタジアムを後にする。そのまま観客席へ向かう。飯田くんはタンカーロボに運ばれた。

かっちゃんと言常闇くんの試合は一方的だった。

常闇くんの弱点の爆破の光によって防戦一方。ヒノアラシとヤミカラスはヤミカラスの方が上手だった。

しかし常闇くんの降参でかっちゃんが決勝に進出した。

そして少し時間が空き、ついに決勝戦が始まろうとしている。

「デク！てめえを中止にされねえ程度にぶっ殺す！」

「そんな気はさらさら無いよ。頼んだよ、クチート！」

『さあいよいよラスト！雄英一年の頂点がここで決まる！決勝戦！

緑谷VS爆豪！

今！START！』

かっちゃんは爆破の反動でこちらに突っ込んでくる。背中にはヒノアラシがしがみつく。

「クチート、かっちゃんにふいうち！」

メガシンカしていないふいうちでかっちゃんを弾き飛ばす。ヒノアラシがひのこを放つがほぼ効かない。

「クチート、メガシンカ！」

かっちゃんは爆破で煙幕を作り出し、その中で回り込んで掴みかかろうとしてくるがクチートがふいうちで全て防ぐ。

「クソが！」

すると煙幕からヒノアラシとかっちゃんが同時に別々の場所から飛び出してきて襲い掛かる。

クチートはヒノアラシの攻撃を弾くがかっちゃんが自分を掴み投

げ飛ばす。

なんとか衝撃を緩和して場外ギリギリで止まる。そこにかつちゃん  
が追い討ちのように襲い掛かるがクチートが駆けつけてアイアン  
ヘッドで防ぐ。

「だったらこれを防いでみやがれ！榴弾砲ハウザーインパクト着弾！」

『麗日戦で見た特大火力に勢いと回転を加え、まさに人間榴弾！』

煙が晴れるとそこには全長30メートルを超えるメガクチートが  
健在していた。

『な、な、なんだこれー!?緑谷のクチートが巨大化したー!?』

自分は巨大クチートの頭の上に乗っている。

「はは、まさかメガシンカポケモンがダイマックスが出来るとは思わ  
なかつたな。」

そう、このスタジアムがダイマックスが出来るスポットのひとつ  
だった。メガシンカポケモンをダメ元で試したら出来たのはいい収  
穫だ。

下でかつちゃんやヒノアラシが攻撃しているが体力は減らない。

「クチート、バトルはまだ終わってないよ！ダイスチル！」

地面から鋼のトゲがいくつも飛び出してかつちゃん達を襲う。

そのトゲが引っ込むと気絶したかつちゃんと戦闘不能のヒノアラ  
シが倒れていた。

「爆豪くん、ヒノアラシ共に戦闘不能！よって、緑谷くんとクチートの  
勝ち！」

ミッドナイトの審判をする。それに続いてプレゼント・マイクの実  
況が入る。

『以上で全ての競技が終了！今年度雄英体育祭一年 優勝は……』

A組 緑谷出久！

## 表彰式

かっちゃんとの決勝戦も終わり、かっちゃんとヒノアラシの治療が終わってから表彰式に移った。

自分も表彰台に登る。かっちゃんは二位の台の上に拘束されている。ヒノアラシは大あくびしてる。三位の所には常闇くんとヤミカラスがいる。

「三位には常闇くんともう一人飯田くんが居るんだけど、お家の事情で早退になっちゃったのでご了承下さいな。」

ミッドナイト先生が飯田君がいない理由を説明してくれる。何があつたんだろうか。

「切り替えて、メダル授与よ！今年メダルを贈呈するのはもちろんこの人！」

「私がメダルを持って来！我らがヒーロー オールマイトオ！」

オールマイトの声とミッドナイト先生の声がかぶってすごいグダツた。

オールマイトが常闇君にメダルを首にかけながら言葉をかける。

「常闇少年、おめでどう！強いな君とヤミカラスは！」

「もったいないお言葉。」「カア。」

「ただ！個性に頼りつきりではダメだ。もっとポケモンと自力を鍛えれば取れる択が増すだろう。」

「御意。」

そのあとはかっちゃん。いまだに暴れている。ヒノアラシは近くで丸まって寝てる。可愛いな。

「さて、爆豪少年！」

「オールマイトオ、俺は一位以外は認めねえ！世間で褒められても自分が納得しなきゃゴミなんだよ！」

「うむ！相対評価に晒され続けるこの世界で不変の絶対評価を持ち続けられる人間はそう多くない。受け取っとけよ！傷として！」

かっちゃんは

「要らねえつつてんだろが！」

強引にかつちゃんの首にメダルをかける。

「最後に緑谷少年！君のポケモンとの絆には感動した！最後の巨大化には度肝を抜かれたがな！これからもポケモンについてはよろしく頼むよ！」

「ありがとうございます、オールマイト。」

メダルを自分の首にかけてくれる。するとボールからジュナイパー達が全員出てきて自分に擦り寄ってくる。

「ちよっ、みんなくすぐったいよ。」

オールマイトは僕らを眺めた後、

「ギア！今回は彼らだった！しかし皆さん！この場の誰にもここに立つ可能性はあった！ご覧いただいた通りだ！競い！高め合い！さらに先へと登っていくその姿！次代のヒーローはポケモンと共に確実にその芽を伸ばしてる！最後に一言！皆さんご唱和下さい！せーの」「」「」「プルス『お疲れ様でした！』」「」「」「」

「そこはプルスウルトラでしょ、オールマイト！」

「ああいや・・・、疲れただろうなと思って・・・」

最後が締まらなかった。

その後教室に戻って相澤先生がSHRを行う。

「おつかれつつうことで明日明後日は休校だ。プロからの指名等をこっちでまとめて休み明けに発表する。ドキドキしながらしつかり休んでおけ。打ち上げは問題を起こさなければやっても良いがな。」

同時刻・保須総合病院

飯田side

兄さんが『ヒーロー殺し』にやられた。急いでこの病院に来た。

「兄さん！」

「こら天哉、静かに・・・。」

「先程、麻酔が切れて目覚めました。まだ朦朧としていますね。あと2分手術が遅かったら手遅れでした。」

医師から説明しているとまだ朦朧としている兄さんから声が聞こ

えた。

「．．．天哉．．．、母．．．さん．．．。おまえ．．．みてえな優  
秀な弟が．．．、せつかく憧れて．．．くれてんの．．．に、ごめん  
な．．．天哉。兄ちゃん．．．負け．．．ちまった。」



## 博物館大パニック 復活！古代の王者

八百万side

昨日から雄英体育祭があったので休校なので、久しぶりに博物館にやってきましたわ。

ポケモンが現れてから博物館などが休館の事が多くて来る機会がありませんでしたわ。

執事にも入り口まで送ってもらってから一旦帰ってもらいました。

博物館の中は絵画や、化石、芸術などが飾られておりとても楽しいですね。見学していると何やら化石エリアの方から騒がしい声が聞こえてきましたわ。

その瞬間、化石エリアの壁を壊して頭に硬そうなギザギザの角？で身体の大部分が青い岩で覆われたティラノサウルスのようなポケモンが現れましたわ。

「えっと、あれは確か……ありましたわ！『ガチゴラス』ですか。それに色違いみたいですわ……」

他の見学者達は大慌てで逃げていますけど、2m越えの大きさのせいですぐに追いついてしまいそうですわ。その穴から色々な姿のポケモン達が出てきていますわ。

「ヒトツキ！力を貸してください！」

バッグの中のボールからヒトツキを繰り出す。キランとひし形の光と共に出てきて、自らを抜き構える。

「ヒトツキ！『れんぞくぎり』です！」

ヒトツキがガチゴラスに切りかかるがほとんど弾かれてしまう。その後、ガチゴラスは私達を敵と認識したのか、空中から岩が現れて私たちに向かって降り注いでくる。

それらを間一髪で避けつつ、ヒトツキには攻撃を続けてもらう。

自分達にはヒーローが来るまでこれぐらいのことしか出来ないのですから！

三分後

ガチゴラスの強力な頭突きでヒトツキが戦闘不能になってしまい

ましたわ。入り口の方から声がするのでヒーロー達も駆けつけているのでしようが、他のポケモン達に邪魔されているみたいですね。「ありがとうございます、ヒトツキ。今はゆっくり休んでください」ヒトツキをボールに戻し、ガチゴラスの方をみる。そこまで体力は削れてはいないみたいですね。ガチゴラスがこちらに向かって突進して来ましたわ。

服が破れるのを承知で『創造』で厚さ1cmの鉄の板を生成しました。

ガチゴラスは突然の事で板に頭をぶつけてふらつきました。それを見て私はヒトツキをしまったバッグから青い丸をベースに黄色い4本の突起物がついたボールを取り出す。

「緑谷さんからもらっていたボールですが、今回は持ってきていて正解でしたね」

私はそのボールをガチゴラスに向かって投げる。ガチゴラスはボールに吸い込まれて閉じて地面に落ちる。

ユラ

ユラ

ユラカチッ！

やりましたわ！ガチゴラスゲットです！

ボールを拾ってから他に人は居ないかを見渡してから入り口に向かいますわ。

その日の夕方

いまさつきヒーローと警察から解放されましたわ。中で1人で

戦ったのでお叱りも受けましたわ。

個性の使用については正当防衛として不問でしたわ。

緑谷さんもポケモン関連なので呼ばれていました。捕まえたガチゴラスについては緑谷さんが『捕まえたポケモンは捕まえた人が育てるのが1番いい』と言うことで正式に私のポケモンとなりましたわ。

ヒトツキも緑谷さんに元気にもらえたので帰ったら新しい家族のガチゴラスと一緒に食事でも取りましようか。

いたずら大好きベロバー

「今日の昼は・・・安いの・・・うーん」

そんなふう独り言をぶつぶつ呟きながら、買い物から家に帰っている。もちろん、頭の上にはミミツキユが乗っている。ちよつとだけしっぽの代わりの木が重いけど気になるほどでもない。

「そうだ・・・お餅かな。ミミツキユもそれでいい?」

「ミミツキユ!」

ミミツキユも快く返事をしてくれる。ふと、周りを見ると電柱にはヤミカラスとスバメが止まっている。

ポケモン達が現れてから、普通のカラスやツバメは一切見なくなっちゃって少しだけさみしい感じがする。

家のドアに手をかけると鍵が開いていた。

(なんでドア空いとるん?)

「お茶子オー!!!」

「ほぎゃー!!!」

突然現れたのは父ちゃんと母ちゃんだった。私の奮闘を見て、おつかれ会をしにわざわざ新幹線で来たみたい。

「〜言つてよお」

思わず目に涙が浮かぶ。ミミツキユは頭の上で私を撫でてくれる。慰めてくれているみたい。

「大丈夫よ、ミミツキユ。これは嬉し泣きやから」

ミミツキユを床に下ろして、部屋の中へと入る。お茶を出すために棚を開けて茶筒を出そうとするといつも置いてある場所に茶筒がなかった。

「お茶子、どうしたの?」

いろいろゴソゴソしてる私を見て母ちゃんが聞いてくる。茶筒がないと、話すと母ちゃんは少しため息をついてから、

「ベーちゃん、いたずらはダメって言ったでしょ?」

そう言うと、押し入れの中からピンク色をした小さい悪魔のようなポケモンが茶筒を持って出てきた。

思わず、ガラケーをそのポケモンに向けて。 雄英高校に通う生徒全員のスマホとガラケーにはデクくん特性のポケモン図鑑がインストールされているから、ポケモンの情報を引き出す事ができる。

『ベロバー 　　いたずらポケモン

みんかに　　しのびこみ　ぬすみを　はたらき　さらに　くやしがる　ひとの　マイナスエネルギーを　いただくのだ』

なんでベロバーが父ちゃん母ちゃんと一緒におるん？話によると、父ちゃんの仕事場にいたずら目的でやってきて、ご飯をあげたら居座るようになったらしい。

「まあ、いたずらは続いているからほんのちよつと迷惑なのは変わらんけどな」

そんな話をしている間にもベロバーは父ちゃんの髪を引つ張ったりしている。かなりのいたずら好きみたい。

今回、ベロバーは置いてきたつもりだったらしいけど荷物に紛れ込んで着いてきてしまったらしい。

茶筒をベロバーから返して貰って、たわいもない話を父ちゃん母ちゃんとしていた。気がつく夕方になつていた。

「よし、今日は父ちゃんが奢つたる！何か食べに行くぞ」  
そういうと、ミミツキユと遊んでたベロバーも嬉しそうにしている。

数時間後。

父ちゃん母ちゃんも家に泊まるらしく久々に家族で過ごした。

「父ちゃん、ベロバーは連れて帰るの？」

「悩んでるんだよな。ポケモン・・・だったか？そのポケモンとやらは全然分かんないからお茶子に任せようと思ってるんだが・・・いいか？」

「多分、大丈夫かな・・・。ポケモン関係の出費は雄英が負担してくれているし」

ミミツキユが居るので、かなりカツカツな生活を送っているんだよね。でも、ポケモン専用のご飯なんかはデクくんが雄英全体を全て負担しているらしいけど。

頼んで自分でも出来ないか？と聞いたら説明してくれたけど、ほとんど無意味だとわかった。

ぽろっくとかタイプそれぞれ好むふーずが違うとか、ポケモンにもっとも好みが違うとかで自分では出来ないと悟ったよね。

「ありがとうな。スパナとか持っていかれたりして大変だったんだ」  
その後もちろん、デクくんから貰った『ゴージャスボール』でベロバーを捕まえて正式に私の仲間になった。

ゴージャスボールを貰ったのは見た目が好きだったからだね。

後日、ゴージャスボールが1個1000円と聞いてぶっ倒れるのはまた別の話。